

# 専修大学図書館所蔵『上方芝居番付』… (五)

山 本 聡

## はじめに

本稿は、本誌第八十八号、第八十九号、第九十号、第九十一号に引き続き専修大学図書館に所蔵されている全十五冊の上方芝居番付の書誌調査を行うものである。前号では『上方芝居番付 八』、『上方芝居番付 九』、『上方芝居番付 十』、の三冊の書誌調査をおこなった。本稿では、前号に引き続き『上方芝居番付 十一』、『上方芝居番付 十二』の二冊の書誌調査をまとめ、掲載する。なお、掉尾に本稿で扱った『上方芝居番付 十一』、『上方芝居番付 十二』の二冊の番付を表にして付しておく

## 《凡例》

一、本稿は、専修大学図書館が所蔵する上方芝居番付資料全十五冊（請求記号 A774/Ka37）の内、上方芝居番付十一〜十二を書誌調査したものである。

二、各番付資料について、原則的に次の事項を記載した。

①【地域】、②【座】、③【番付種別】、④【上演年月日】、⑤【外題】、⑥【読み】、⑦【座本】、⑧【名代】、⑨【太夫本】、⑩【狂言作者】、⑪【版元】、⑫【演者】、⑬【備考】

三、記載事項細目

①【地域】は興行地域を、番付の記載に基づき示した。記載がないものは②の上演劇場や他の資料で考証した。

②【座】は上演劇場(座)を、番付の記載に基づき、略称によって示した。記載がないものは他の資料で考証した。

③【番付種別】は、番付の記載や他の資料による考証から示した。

④【上演年月日】は、番付面の記載に基づき示した。年月の記載がない場合は他の番付、年表類などによって考証したが、番付の記載と考証によったものとの区別は記していない。

⑤【外題】は、番付の記載に基づき、原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑥【読み】は、番付の記載と考証により、外題の読み現代仮名遣いに改めた。濁点、半濁点などは、番付表記にこだわらず適宜補って記した。

⑦【座本】【名代】【太夫本】は興行関係者名を、番付の記載に基づき示した。

⑧【狂言作者】は、番付の記載に基づき、主な狂言作者名のみを示した。原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑨【版元】は、番付面の記載に基づき示した。

⑩【演者】は主要出演者名を、番付の記載に基づき、主な主要出演者名のみを示した。原則的に旧漢字、異体字、略字体等は常用漢字に改めた。但し、慣用されている異体字の一部は残した。

⑪【備考】は、絵本番付の枚数、二枚組番付上・下、番付内書入、番付内の判別不可の文字等の情報を示した。

なお、番付面に見えず考証により判明した事項はすべて「」で補った。

上方芝居番付十一『自天保十二年至弘化四年』

N o 1

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑七月吉日

【外題】 (一) 傾城百万国

(二) 廓獅花富草

【読み】 (一) けいせいひやくまんごく

(二) くるわじしはなのとみくさ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、中山よしを、三枿

源之助、中村芝翫、実川延三郎、中村歌十郎、

中村歌七、中村友三

N o 2

【地域】 京都

【座】 四条道場芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑七月吉日

【外題】 (三) 国性爺合戦

(四) 桂川二世柵

【読み】 (三) こくせんやかっせん

(四) かつらがわにせのしがらみ

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 奈河浜助、近松歌津助

【版元】 和泉又

【演者】 中山みよし、中嶋三甫藏、中山吉太郎、嵐三津

之助、中村駒三郎、嵐三津五郎、市川白之助、

浅尾浅五郎

N o 3

【地域】 京都

【座】 因幡薬師芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十二年（1841） 丑七月吉日

【外題】（五） 定家郷小倉色紙

（六） 隅田川続俤

【読み】（五） ていかきようおぐらのしきし

（六） すみだがわつづきおもかげ

【名代】 蛭子屋吉郎兵衛

【狂言作者】 芝吉造、奈河七三郎

【版元】 和泉又

【演者】 市川助寿郎、姉川仲藏、嵐璃珥、中山来助、嵐

団八、尾上多見之丞、中村吉太郎、三枅紅之助

N o 4

【地域】 京都

【座】 四条道場芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十二年（1841） 丑八月吉日

【外題】（七） 霧太郎天狗酒醺

【読み】（七） きりたろうてんぐのさかもり

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 近松歌津助、奈河浜助

【版元】 和泉又

【演者】 嵐三津五郎、浅尾浅五郎、中嶋三甫藏、中山兵

太郎、嵐三津之助、中村駒三郎、市川鯛十郎、

瀬川瀧紅、中村芝太郎

N o 5

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 丑八月吉日

【外題】（八） 敵討崇禪寺馬場

（九） 大踊切子曙

【読み】（八） かたきうちそうぜんじばば

（九） おおどりきりこのあけぼの

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 市岡和七、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、浅尾与六、市川助寿郎、中村歌六、



片岡我童、嵐かのふ、中山文七、嵐三右衛門、  
中山文五郎、尾上芙蓉

N 0 6

【地域】 京都

【座】 四条道場芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十二年（1841） 丑十月吉日

【外題】 （一〇） 敵討御堂前

（一一） 延紙の書置

【読み】 （一〇） かたきうちみどうまえ

（一一） のべがみのかきおき

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 奈河七三助、奈河松之助

【版元】 和泉又

【演者】 市川男女蔵、藤川鎌九郎、中村歌路之助、市川

森之助、中村松助、嵐丸保、尾上多見之丞、山

下里蝶、山下菊之助

N 0 7

【地域】 京都

【座】 四条道場芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十三年（1842） 寅正月吉日

【外題】 （一二） けいせい廓芋環

（一三） 壇浦兜軍記

（一四） 室正月

【読み】 （一二） けいせいさとのおだまき

（一三） だんのうらかぶとぐんき

（一四） むろのしょうがつ

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 奈河七三輔、近松歌路助

【版元】 和泉又

【演者】 嵐三津五郎、嵐冠十郎、山下里蝶、大谷友治、

尾上芙蓉、市川市紅、瀬川菊三郎、中村梅助、

市川白之助

N 0 8

【地域】 京都

【座】誓願寺芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】天保十三年（1842）寅正月吉日

【外題】（二五）傾城忍術池

（二六）義経千本桜

【読み】（二五）けいせいしのばずがいけ

（二六）よしつねせんぼんざくら

【名代】津川大吉

【狂言作者】近松歌津助、吉野吉五郎

【版元】柏四郎

【演者】浅尾大吉、中山新九郎、中村富三郎、藤川鎌九

郎、嵐三津之助、中村鹿之助、中村玉之助

No 9

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】寅正月吉日

【外題】（二七）けいせい筑紫■（■は王王の下に金偏

に夫）

（二八）傲花傾城道成寺

【読み】（二七）けいせいづくしのつまごと

（二八）てくだのはなけいせいどうじょうじ

【座本】中村富助

【狂言作者】金澤龍玉、嶺琴八十助

【版元】内茶屋

【演者】中村富十郎、大谷友右衛門、市川助寿郎、片岡

我童、叶雛助、浅尾奥山中村歌七、中山文五郎

No 10

【地域】名古屋

【座】大須芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十三年（1842）〕寅二月吉日

【外題】（二九）柵自来也談

（二〇）猿曳門出諷

【読み】（二九）やえむすびじらいやものがたり

（二〇）さるまわしかどでのひとふし

【名代】 和泉屋、相模掾

【狂言作者】 近松岡助、鶴亀蝶

【版元】 内茶屋

【演者】 中山新九郎、坂東のしほ、坂東寿三郎、中村か  
るも、谷村谷三郎、浅尾車丸

No 11

【地域】 京都

【座】 因幡芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十三年（1842）寅二月吉日

【外題】 (一一) けいせい廓船諷

(一二) 桂川連理柵

【読み】 (一二) けいせいさとのふなうた

(二二) かつらがわれんりのしがらみ

【名代】 蛭子屋吉郎兵衛

【狂言作者】 槌井豊作

【版元】 柏四郎

【演者】 市川市十郎、姉川仲蔵、中村歌路之助、市川森

之助、中山甚吉、市川森助、嵐国八

No 12

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十三年（1842）) 寅二月吉日

【外題】 (二三) 鏡山再続梯

(二四) 伊勢音頭恋寝釵

(二五) 倣花傾城道成寺

【読み】 (二三) かがみやまごにちのおもかげ

(二四) いせおんどこいのねたば

(二五) てくだのはなけいせいどうじようじ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 並木五瓶、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、尾上菊五郎、大谷友右衛門、中村  
歌六、叶雛助、浅尾奥山、尾上松助、中山文五  
郎、中村歌七

N o 1 3

【地域】 不明

【座】 天神社内北門芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 天保十三年（1842）寅三月吉日

【外題】（二六）八陣守護城

（二七）舞扇南柯話

【読み】（二六）はちじんしゅごのほんじょう

（二七）まいおうぎなんかのはなし

【座本】 中村梅之助

【狂言作者】 福老多家造、浅田与助

【版元】 いづ卯

【演者】 市川男女藏、尾上羽幸、嵐松五郎、中村琴三

郎、榊山金藏、中村歌藏、市川助六、嵐丸保、

市川辰之助

N o 1 4

【地域】（名古屋）

【座】（若宮芝居）

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 寅五月吉日

【外題】（二八）祇園祭礼信仰記

（二九）ちらし書廊文章

（三〇）東染比翼曙

（三一）心中浮名鮫鞘

【読み】（二八）ぎおんさいれいしんこうき

（二九）ちらしがきくるわぶんしょう

（三〇）あづまじたてひよくのあけぼの

（三一）しんじゅううきなのさめざや

【名代】 松本屋増太郎

【狂言作者】 柳岡助、幸岩周藏

【版元】 内茶屋

【演者】 沢村訥升、中村大吉、中村新九郎、坂東寿三

郎、市川清十郎、中村かるも、坂東のしほ、市

川茂々三

N o 1 5

【地域】 大阪

【座】 天満芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 寅十一月

【外題】 (二三) 荳菴桑門筑紫■ (■は車偏に榮)

(二三) 義経千本桜

【読み】 (二三) かるかやどうしんつくしのいえづと

(二三) よしつねせんほんざくら

【座本】 中村梅之助

【狂言作者】 高恋造、福老多多助

【版元】 不明

【演者】 市川男女藏、嵐冠藏、中山新九郎、市川米十

郎、尾上梅之丞、嵐国八、瀬川菊三郎、大谷馬

若

N 016

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十四年 (1843)) 卯正月吉日

【外題】 (三四) 花雪歌清水

【読み】 (三四) はなふぶきうたのきよみず

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 並木左衛門、市岡和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、片岡市藏、三枡源之助、中村歌寿

郎、実川延三郎、嵐徳三郎、中山よしを、中村

友三、小川吉太郎

N 017

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 二月

【外題】 (三五) 二十四孝

(三六) ●女鑑

(三七) 菅原

(三八) 白石噺

(三九) 伊賀越

(四〇) 狭間

(四一) 八嶋日記

(四二) 妹背門松

(四三) 花上野

(四四) 兜軍記

【読み】(三五) にじゅうしこう

(三六) 不明

(三七) すがわら

(三八) しらいしばなし

(三九) いがごえ

(四〇) はざま

(四一) やしまにつき

(四二) いもせのかどまつ

(四三) はなのうえの

(四四) かぶとぐんき

【名代】松本屋増太郎

【太夫】竹本綱太夫

【版元】内茶屋

【演者】和太夫、真嶋太夫、綾太夫、咲太夫、むら太

夫、巴太夫、寿太夫、綱太夫

【備考】浄瑠璃役割番付

No18

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十四年（1843）卯二月吉日

【外題】（四五）ももちどり鳴門白浪

（四六）勝鬨亭源氏

（四七）女鉢木

（四八）双蝶々曲輪日記

【読み】（四五）ももちどりなるとのしらなみ

（四六）かちどきみばえげんじ

（四七）おんなはちのき

（四八）ふたつちようちようくるわにつき

【座本】尾上和市

【狂言作者】奈河政輔、沢嵐納老

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌六、大谷友右衛門、叶雛助、嵐徳三郎、市川鯉寿郎、嵐三右衛門、中山文五郎、嵐冠十郎

N o 1 9

【地域】 大阪

【座】 北新地芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 卯三月吉日

【外題】 (四九) 新うすゆき物語

(五〇) 鎌倉三代記

(五一) 一谷嫩軍記

(五二) 戻駕廓大全

【読み】 (四九) しんうすゆきものがたり

(五〇) かまくらさんだいき

(五一) いちのたにふたばぐんき

(五二) もどりがごくるわだいぜん

【座本】 嵐三津蔵

【狂言作者】 奈河平吉、奈河政七

【版元】 いづ卯

【演者】 嵐三津蔵、嵐猿之助、三枿時蔵、尾上和七、嵐芳三郎、市川市蔵、中村兎玉、姉川仲太郎、嵐橘蔵

橘蔵

N o 2 0

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十四年(1843)) 卯四月吉日

【外題】 (五三) 八陣守護城

(五四) 夏祭浪花鑑

(五五) 廻山姥

【読み】 (五三) はちじんしゅごのほんじょう

(五四) なつまつりなにわかがみ

(五五) こもちやまんば

【名代】 松本屋増太郎

【太夫】 竹本綱太夫

【版元】 内茶屋

【演者】 豊竹巴太夫、竹本むら太夫、竹本喜代太夫、竹

本綱太夫、豊竹和太夫、竹本咲太夫

【備考】 浄瑠璃役割番付

N o 2 1

【地域】 名古屋

【座】 若宮芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯五月十五日

【外題】 （五六） 仮名手本忠臣蔵

（五七） ひらかな盛衰記

【読み】 （五六） かなでほんちゅうしんぐら

（五七） ひらかなせいすいき

【名代】 松本屋増太郎

【太夫】 竹本綱太夫

【版元】 内茶屋

【演者】 竹本綱太夫、竹本むら太夫、竹本寿太夫、豊竹

和太夫、豊竹巴太夫、竹本里太夫

【備考】 浄瑠璃役割番付

N o 2 2

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯五月吉日

【外題】 （五八） 木下蔭狭間合戦

（五九） 織合檻樓錦

【読み】 （五八） このしたかげはざまかつせん

（五九） おりあわせつづれのにしき

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 並木左衛門、市川和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、中山よしを、片岡市蔵、三枡源之

助、実川延三郎、藤川花友、中村歌寿郎、中村

友三、中村芝蔵

N o 2 3

【地域】 大阪



【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔弘化二年（1845）〕 巳三月吉日

【外題】 (六〇) 袖硯伊賀越日記

(六一) 花雲鐘浅草

(六二) 勢州阿漕浦

【読み】 (六〇) そですずりいがごえにつき

(六一) はなおくもかねはあさくさ

(六二) せいしゅうあこぎがうら

【座本】 市川米蔵

【狂言作者】 西沢一鳳軒、南坡東助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、実川延三郎、浅尾与六、中村歌

六、叶雛助、嵐璃寛、市川鰈十郎、市川小団

治、山下金作、中村友三

N 024

【地域】 大阪

【座】 筑後芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔弘化二年（1845）〕 巳四月吉日

【外題】 (六三) 拳禪廓大通

(六四) 御所桜堀川夜討

(六五) 隅田春妓女客性

【読み】 (六三) けんまわしさとのだいっつう

(六四) ごしよさくらほりかわようち

(六五) すだのはるげいこかたぎ

【座本】 市川助太郎

【狂言作者】 奈河政橋、奈河十八助

【版元】 内茶屋

【演者】 三枡源之助、片岡市蔵、中村芝翫、嵐璃瑠、市

川助寿郎、中山みよし、中村芝蔵、中山一徳、

中村東蔵

N 025

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 不明

【外題】 (六六) 傾城小倉色紙

(六七) けいせい石川染

(六八) 荳菴桑門筑紫■ (■は車偏に榮)

(六九) 須磨都源平躑躅

【読み】 (六六) けいせいおぐらしきし

(六七) けいせいしかわぞめ

(六八) かるかやどうしんつくしのいえづと

(六九) すまのみやこげんぺいつつじ

【版元】 和泉屋又兵衛

【演者】 片岡市藏、尾上多見藏、中村歌寿郎、市川国三

郎、小川吉太郎、嵐冠十郎、嵐三右衛門、中村

友三

【備考】 番付上・下二枚綴りの下

N 026

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (弘化二年(1845)) 巳九月吉日

【外題】 (七〇) 嫁入信田棲

(七一) 源平布引瀧

(七二) 恋湊博多幟

【読み】 (七〇) よめいりしのだづま

(七一) げんぺいぬのびきのたき

(七二) こいみなとはかたのひとふし

【座本】 市川米藏

【狂言作者】 西沢一鳳軒、嶺琴八十助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老藏、実川延三郎、三柝源之助、中村歌

六、中村巴丈、嵐璃寛、嵐璃珪、中山文七、叶

雛助、中村友三

N 027

【地域】 大阪

【座】 筑後芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化二年(1845) 巳九月吉日

【外題】(七三) けいせい稚児淵

(七四) 大経師昔暦

【読み】(七三) けいせいちごがふち

(七四) だいきようじむかしごよみ

【座本】市川助太郎

【狂言作者】奈河政橋、奈河十八助

【演者】片岡市藏、中村芝翫、市川助寿郎、中山みよし、片岡我童、中村芝藏、中山一徳

N 028

【地域】大阪

【座】若太夫芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】弘化二年(1845) 巳十月吉日

【外題】(七五) 本朝二十四孝

(七六) 妹背山婦女庭訓

(七七) 鰯恋湊

(七八) 御恵月景清

【読み】(七五) ほんちようにじゅうしこう

(七六) いもせやまおんなていきん

(七七) たてひきこいのふなつき

(七八) おんめぐみつきのかげきよ

【座本】市川米藏

【狂言作者】並木左衛門、嶺琴八十助

【版元】本清

【演者】市川海老藏、中村歌六、市川鰯十郎、中山文七、嵐璃珢、叶雛助、中山文五郎、中村梅藏、市川猿藏、浅尾奥次郎

N 029

【地域】京都

【座】四条南側芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】弘化二年(1845) 巳霜月吉日

【外題】(七九) 寿式三

(八〇) 伊賀越道中双六

(八一) 蘆屋道満大内鑑

【読み】(七九) ことぶきしきさん

【八〇】 いがごえどうちゅうすゝろく

【八一】 あしやどうまんおおうちかがみ

【名代】 都万太夫、布袋屋梅之丞

【狂言作者】 近松慈輔、松鱸亭助

【版元】 和泉屋又兵衛

【演者】 尾上多見蔵、実川延三郎、市川団三郎、中村歌

寿郎、中山よしを、嵐三右衛門、嵐富三郎、中

村友三、嵐冠十郎

N o 3 0 3 1

【地域】 京都

【座】 四条北側芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化二年（1845）巳霜月吉日

【外題】 【八一】 寿式三

【八三】 蘆屋道満大内鑑

【八四】 双蝶々曲輪日記

【八五】 一谷嫩軍記

【八六】 鏡山旧錦絵

【読み】 【八二】 ことぶきしきさん

【八三】 あしやどうまんおおうちかがみ

【八四】 ふたつちようちようくるわにつき

【八五】 いちのたにふたばくんき

【八六】 かがみやまこきょうのにしきえ

【名代】 早雲長太夫、亀谷糸之丞

【狂言作者】 嶺琴舍菊種、八文舍菊雄

【版元】 和泉屋又兵衛

【演者】 市川海老蔵、中村富十郎、中村歌六、嵐璃珪、

三柝源之助、嵐璃寛、市川鰈十郎、中山文七、

叶雛助

【備考】 番付上・下二枚綴り

N o 3 2

【地域】 大阪

【座】 筑後芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 【弘化三年（1846）】 午正月吉日

【外題】 【八七】 けいせい錦帯橋

【読み】 (八七) けいせいきんたいばし

【座本】 市川助太郎

【狂言作者】 奈河政橘、奈河十八助

【版元】 本清

【演者】 片岡市藏、中村芝翫、市川助寿郎、片岡我童、  
沢村其答、中山みよし、中村芝藏、浅尾奥山

N o 3 3

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 [弘化三年 (1846)] 午正月吉日

【外題】 (八八) 花雪歌清水

(八九) 一谷嫩軍記

(九〇) 助六由縁江戸桜

(九一) 熊坂物見松

【読み】 (八八) はなふぶきうたのなどころ

(八九) いちのたにふたばぐんき

(九〇) すけろくゆかりのえどざくら

(九一) くまさかものみのまつ

【座本】 市川猿松

【狂言作者】 嶺琴舍菊種、松鱸亭助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老藏、市川鰯十郎、中村歌六、嵐吉三  
郎、嵐璃珪、中山文七、中村巴丈、叶雛助、嵐

冠十郎

N o 3 4

【地域】 京都

【座】 宮川町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年 (1846) 午正月吉日

【外題】 (九二) けいせい繁夜話

(九三) 隅田春妓女容性

【読み】 (九二) けいせいしげしげやわ

(九三) すだのはるげいこかたき

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 近松歌津助、近松七五三助

【版元】 泉又

【演者】 尾上多磨蔵、嵐三十、市川常之丞、中村のしを、桐嶋小六、市川市平、中村富江、山下宮松

N 035

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午正月吉日

【外題】（九四） けいせい浜真砂

（九五） 未熟ちよつと五変化

【読み】（九四） けいせいいまのまさご

（九五） およばずながらちよつといつばけ

【座本】 市川米蔵

【狂言作者】 嶺琴八十助、松鱸亭助

【版元】 内茶屋

【演者】 実川延三郎、三耕大五郎、中村歌寿郎、中山南枝、嵐璃寛、市川市紅、嵐三右衛門、小川吉太

郎、中村友三

N 036

【地域】 不明

【座】 不明

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 午二月吉日

【外題】（九六） 仮名手本忠臣蔵

【読み】（九六） かなでほんちゅうしんぐら

【座本】 小林六太夫

【太夫】 豊竹巴太夫

【演者】 豊竹巴太夫、豊竹久代太夫、豊竹先太夫、豊竹

入太夫、豊竹光太夫

【備考】 浄瑠璃役割番付

N 037～38

【地域】 京都

【座】 四条南側芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年（1846）午四月吉日

【外題】（九七） 伽羅先代萩

【九八】 東鑑御狩巻

【九九】 義臣伝説切講釈

【読み】 (九七) めいぼくせんだいはぎ

(九八) あずまかがみみかりのまき

(九九) ぎしんでんよみきりこうしゃく

【名代】 都万太夫、布袋屋梅之丞

【狂言作者】 八文舎菊雄、嶺琴舎菊種

【版元】 和泉又

【演者】 中村富十郎、浅尾与六、市川市紅、中村歌七、

中嶋三甫右衛門、嵐冠十郎、浅尾与作、三枘松

五郎

N o 3 9 \ 4 0

【地域】 京都

【座】 四条北側芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年 (1846) 五月吉日

【外題】 (一〇〇) 姫競翳檜扇

(一〇一) 小野道風青柳硯

(二〇二) 姫山姥

【読み】 (二〇〇) ひめくらべかざしのひおうぎ

(二〇一) おののとうふうあおやぎすずり

(二〇二) こもちやまんば

【名代】 早雲長太夫、亀谷衆之丞

【狂言作者】 八文舎菊雄、金史朗

【版元】 和泉屋又兵衛

【演者】 中村富十郎、浅尾与六、小川吉太郎、嵐璃寛、

市川市紅、嵐三右衛門、嵐冠十郎、実川勇次

郎、中村友三

N o 4 1

【地域】 京都

【座】 宮川町

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年 (1846) 午五月

【外題】 (二〇三) 祇園女御九重錦

(二〇四) 伊達音頭恋寝釵

【読み】 (二〇三) ぎおんにようごこのえにしき

(一〇四) だておんどこいのねたば

【名代】 宇治嘉太夫

【狂言作者】 近松歌路助

【版元】 和泉又

【演者】 坂東珉子、市川鰍十郎、市川紅之助、中村歌

助、沢村三吉、山平宮松、中村富松、中村歌四

郎

N o 4 2

【地域】 京都

【座】 左女牛南側芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年(1846) 午五月吉日

【外題】 (一〇五) 寿式三

(一〇六) 総合太功記

(一〇七) 鐘もろとも夢鮫鞘

(一〇八) 夏祭浪花鑑

【読み】 (一〇五) ことぶきしきさん

(一〇六) えあわせたいこうき

(二〇七) かねもろともゆめのさめざや

(二〇八) なつまつりなにわかがみ

【名代】 津川大吉

【狂言作者】 奈河政助、木場辰助

【版元】 和泉又兵衛

【演者】 中村歌六、市川鰍十郎、中村歌寿郎、沢村源之

助、姉川仲藏、中山文七、中山文五郎、市川猿

藏、市川高麗藏

N o 4 3

【地域】 京都

【座】 宮川町芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年(1846) 午六月吉日

【外題】 (二〇九) ひらかな盛衰記

(二一〇) 夏祭浪花鑑

【読み】 (二〇九) ひらかなせいすいき

(二一〇) なつまつりなにわかがみ

【名代】 宇治嘉太夫



【狂言作者】近松歌路助、奈河万二郎

【版元】和泉又

【演者】坂東珉子、中村歌助、中山甚平、中村駒三郎、

中村歌四郎、市川紀之助、山下宮松

N o 4 4

【地域】京都

【座】宮川町芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】弘化三年(1846) 午八月吉日

【外題】(一一一) けいせい染分総

(一二二) 勢州阿漕浦

【読み】(一一一) けいせいそめわけたづな

(一二二) せいしゅうあこぎがうら

【名代】宇治嘉太夫

【狂言作者】鈴花王、奈河平三

【版元】和泉屋又兵衛

【演者】市川友蔵、中村歌助、市川紀之助、中村富松、

山下宮松、中山甚平、中村駒三郎、中村歌四郎

N o 4 5 \ 4 6

【地域】京都

【座】四条北側芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】弘化三年(1846) 午霜月吉日

【外題】(一一三) 秋葉権現廻船話

(一一四) 恋女房染分手綱

(一一五) 敵討浦朝霧

(一一六) 国性爺合戦

(一一七) 鐘鳴今朝噂

【読み】(一一三) あきばごんげんかいせんばなし

(一一四) こいにようぼうそめわけたづな

(一一五) かたきうちうらのあさざり

(一一六) こくせんやかっせん

(一一七) かねがなるけさのうわさ

【名代】早雲長太夫、亀谷象之丞

【狂言作者】嶺琴舎菊種、松鱸亭助

【版元】和泉屋又兵衛

【演者】 嵐吉三郎、実川延三郎、三耕大五郎、中山南

枝、中村歌六、嵐璃寛、市川市紅、嵐三右衛

門、小川吉太郎、中村友三

【備考】 番付上・下二枚綴り

N 0 4 7

【地域】 京都

【座】 四条南側芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化三年（1846）午霜月吉日

【外題】 （二一八） 寿式三

（二一九） 敵討巖流嶋

（二二〇） 神靈矢口渡

（二二二） 隅田春妓女容性

【読み】 （二一八） ことぶきしきさん

（二一九） かたきうちがなりゆうじま

（二二〇） しんれいやぐちのわたし

（二二二） すだのはるげいこかたぎ

【名代】 都万大夫、布袋屋梅之丞

【狂言作者】 八文社菊雄、金史朗

【版元】 和泉又

【演者】 市川海老蔵、中村芝鶴、嵐璃瑠、中村富十郎、

市川鰈十郎、中村菊太郎、姉川仲蔵、叶雛助、

嵐冠十郎、沢村源之助

N 0 4 8

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 弘化四年（1847）未正月吉日

【外題】 （二二三） けいせい飛馬始

（二二三） 神靈矢口渡

（二二四） 近江源氏先陣館

（二二五） 義経千本桜

【読み】 （二二三） けいせいひめはじめ

（二二三） しんれいやぐちのわたし

（二二四） おうみげんじせんじんやかた

（二二五） よしつねせんぼんざくら

【座本】 市川猿松

【狂言作者】 金澤菊助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、嵐璃珢、市川小団治、中村歌六、

山下金作、嵐吉三郎、坂東寿太郎、中山文七、

浅尾工左衛門、嵐富三郎、沢村源之助、中山文

五郎

上方芝居番付十二『天保十一年より嘉永四年』

N o 1

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 子十月吉日

【外題】 (一) 乍憚口上

(二) 花桐いろは評判

(三) 関取二代勝負付

【読み】 (一) はばかりながらこうじょう

(二) はなぎりいろはひょうばん

(三) せきとりにだいしょうぶづけ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、中村芝翫、片岡我童、三枡源之

助、浅尾工左衛門、中村文五郎、市川高麗蔵、

中村文七、中村歌七

N o 2

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十一年(1840)) 子三月吉日

【外題】 (四) 仮名手本忠臣蔵

(五) 平家女護嶋

【読み】 (四) かなでほんちゅうしんぐら

(五) へいけによごのしま

【座本】 市川市河蔵

【狂言作者】 木村宝助、奈河新平

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、市川助寿郎、中山よしを、中村芝

翫、実川延三郎、中村歌六、浅尾工左衛門、嵐

璃珏

No 3

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十一年（1840）〕子十月吉日

【外題】 （六） 柵自来也談

（七） 伽羅先代萩

【読み】 （六） やえむすびじらいやものがたり

（七） めいぼくせんだいはぎ

【座本】 市川市河蔵

【狂言作者】 市岡和七、金沢菊助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、浅尾与六、中山よしを、市川市紅、

嵐かのふ、尾上多見蔵、中村友三、中村東蔵

No 4

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政十一年（1828）〕子八月吉日

【外題】 （八） 大塔宮蟻鎧

（九） 粧水絹川堤

（一〇） 男哉女鳴神

【読み】 （八） おおとうのみやあさひのよろい

（九） けわいみずきぬがわづつみ

（一〇） おとこなりけりおんななるかみ

【座本】 澤村音松

【狂言作者】 沢嵐納老、井筒一斎

【版元】 内茶屋

【演者】 坂東寿太郎、嵐かのふ、藤川友吉、嵐猪三郎、

大谷友右衛門、嵐橘三郎、澤村国太郎、浅尾奥

山

N 05

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔文政十一年(1828)〕子九月吉日

【外題】(一一) 物ぐさ太郎

(一二) 双紋廓錦絵

【読み】(一一) ものぐさたろう

(一二) ひよくもんざとのにしきえ

【座本】澤村音松

【狂言作者】沢嵐納老、奈河勘助

【版元】内茶屋

【演者】片岡仁左衛門、嵐璃寛、大谷友右衛門、坂東寿

太郎、藤川友吉、沢村国太郎、浅尾奥山、嵐三

五郎

N 06

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十二年(1841)〕丑五月吉日

【外題】(二三) 重扇萩の伊達染

【読み】(二三) かさねおうぎはぎのだてそめ

【座本】中村梅花

【狂言作者】並木五瓶、奈河政橘

【版元】内茶屋

【演者】尾上菊五郎、尾上梅幸、浅尾与六、尾上松助、

三杵他人、嵐かのふ、藤川花友、中村芝蔵

N 07

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十二年(1841)〕丑七月吉日

【外題】(二四) 傾城百万国

(二五) 廓獅花富草

【読み】(二四) けいせいひやくまんごく

(二五) くるわじしはなのとみくさ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、中村歌十郎、中村

芝翫、三枅源之助、実川延三郎、中山よしを、

中村友三

No 8

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑九月吉日

【外題】 （二六） 敵討高砂松

（二七） 恋女房染分手綱

【読み】 （二六） かたきうちたかさごのまつ

（二七） こいにようばうそめわけたづな

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、尾上芙蓉、中村芝

翫、三枅源之助、実川延三郎、中山よしを、中

村友三

No 9

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑九月吉日

【外題】 （二八） 契情狭妻櫛

（二九） 巖嶋の写絵

【読み】 （二八） けいせいさつまぐし

（二九） みやじまのうつしえ

【座本】 市川团治郎

【狂言作者】 市岡和七、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川团蔵、浅尾与六、片岡我童、中村歌六、中

山文七、嵐かのふ、嵐三右衛門、中村東蔵

No 10

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯三月吉日

【外題】 (二〇) 敵討巖流嶋

(二二) 釜淵双綴巴

【読み】 (二〇) かたきうちがんにゅうしま

(二二) かまがぶちふたつどもえ

【座本】 尾上和市

【狂言作者】 沢嵐納老、槌井豊作

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡市蔵、大谷友延門、嵐徳三郎、中村歌六、

市川鰐寿郎、嵐冠十郎、中山文五郎、中山文七

No 11

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔文政十二年（1829）〕 丑三月吉日

【外題】 (二二) けいせい楊柳桜

(二三) 鏡山旧錦絵

【読み】 (二二) けいせいやなぎざくら

(二三) かがみやまこきょうのにしきえ

【座本】 片岡嶋丸

【狂言作者】 並木吾輔、近松熊蔵

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、大谷友右衛門、嵐団八、嵐璃寛、藤

川友吉、嵐舎丸、片岡仁左衛門、坂東寿太郎

No 12

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑正月吉日

【外題】 (二四) けいせい楊柳桜

(二五) 浪花潟三津汐汲

【読み】 (二四) けいせいやなぎざくら

(二五) なにわがたみつのしおくみ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉、西沢李叟

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、片岡我童、中村芝

翫、三杵源之助、中山よしを、尾上芙蓉、実川

延三郎

N o 1 3

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十二年（1841）〕 丑五月吉日

【外題】 〔二六〕 けいせい繁夜話

〔二七〕 伊勢音頭恋寝釵

【読み】 〔二六〕 けいせいしげしげやわ

〔二七〕 いせおんどこいのねたば

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、片岡我童、中村歌七、中村芝翫、

尾上芙蓉、中山よしを、中山文七、実川勇次郎

N o 1 4

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅正月吉日

【外題】 〔二八〕 傾城染分総

【読み】 〔二八〕 けいせいそめわけたづな

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 並木左衛門、市岡和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、嵐璃珥、片岡市藏、中山よしを、中

村歌寿郎、中山文七、浅尾工左衛門、中村友

三、市川友藏

N o 1 5

【地域】 大阪

【座】 中の芝居



【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅十月吉日

【外題】 (二九) 絵本太功記

(三〇) 持丸長者黄金笄

(三一) 姫小松子の日遊

【読み】 (二九) えあわせたいこうき

(三〇) もちまるちようじゃかねのかんざし

(三一) ひめこまつねのひのあそび

【座本】 市川团治郎

【狂言作者】 並木左衛門、市岡和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川团藏、三柵源之助、中村歌寿郎、中村歌

六、中山よしを、市川友藏、市川宋十郎、中山

一徳

N o 1 6

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅八月吉日

【外題】 (三二) 紅楓いろは文庫

(三三) 名作切籠曙

【読み】 (三二) べにかえていろはぶんこ

(三三) めいさくきりこのあけぼの

【座本】 中村富助

【狂言作者】 西沢一鳳軒、甘橋亭菊寿

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、尾上梅鶴、浅尾工左衛門、尾上登

龍、中村与六、山下金作、中村歌七、中村慶

子、中山新九郎、浅尾奥山

N o 1 7

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅十月吉日

【外題】 (三四) 絵合太功記

(三五) 頼政鶴物語

〔三六〕 比翼鳥部山

【読み】 〔三四〕 えあわせたいこうき

〔三五〕 よりまさぬえものがたり

〔三六〕 ひよくとりべやま

【座本】 中村富助

【狂言作者】 西沢一鳳軒、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、片岡市藏、嵐徳三郎、叶雛助、浅

尾工左衛門、浅尾奥山、中村歌七、中村巴丈、

嵐冠十郎

N o 1 8

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅十月吉日

【外題】 〔三七〕 総合太功記

〔三八〕 頼政鶴物語

〔三九〕 比翼鳥部山

【読み】 〔三七〕 えあわせたいこうき

〔三八〕 よりまさぬえものがたり

〔三九〕 ひよくとりべやま

【座本】 中村富助

【狂言作者】 西沢一鳳軒、南坡補助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、片岡市藏、嵐徳三郎、叶雛助、浅

尾工左衛門、浅尾奥山、中村歌七、中村巴丈、

嵐冠十郎

N o 1 9

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅正月吉日

【外題】 〔四〇〕 けいせい桜城砦

【読み】 〔四〇〕 けいせいさくらのほんじょう

【座本】 市川团治郎

【狂言作者】 市岡和七、奈河竹助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、中村歌寿郎、中山よしを、中村歌

六、中村芝翫、嵐璃珥、中山文七、浅尾工左衛門、中村友三

N o 2 0

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十三年 (1842) 寅正月吉日

【外題】 (四二) けいせい筑紫■ (■は王王の下に金偏に夫)

(四二) 傲花傾城道成寺

【読み】 (四二) けいせいつくしのつまこと

(四二) なぞらえてはなのけいせいどうじょうじ

【座本】 中村富助

【狂言作者】 金澤龍玉、嶺琴八十助

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、大谷友右衛門、市川助寿郎、片岡

我童、叶雛助、中山文五郎、中村歌七、中村巴丈

N o 2 1

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (天保十三年 (1842) 寅九月吉日

【外題】 (四三) 敵討浦朝霧

(四四) 北条時頼記

【読み】 (四三) かたきうちうらのあさぎり  
(四四) ほうじょうじらいき

【座本】 中村富助

【狂言作者】 西沢一鳳軒、奈河政輔

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾与六、尾上梅鶴、中村慶子、

浅尾奥山、中山文七、中村巴丈、山下金作、浅

尾工左衛門、中山文五郎

N o 2 2

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅八月吉日

【外題】 〔四五〕 けいせい大江山

〔四六〕 菊新形繻子帯地

〔四七〕 鬼一法眼三略巻

【読み】 〔四五〕 けいせいおおえやま

〔四六〕 きくのしんがたじゆすのおびじ

〔四七〕 きいちほうげんさんりやくのまき

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 並木五瓶、市岡和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、中村歌六、尾上松緑、中村歌寿郎、

尾上松助、中山よしを、大谷友右衛門、市川男

女藏

N 023

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十三年（1842）〕 寅三月吉日

【外題】 〔四八〕 傾城染分総

【読み】 〔四八〕 けいせいそめわけたづな

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 市岡和七、奈河竹助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、片岡市藏、中村芝翫、嵐璃珤、浅尾

工左衛門、山下金作、藤川花友

N 024

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯正月吉日

【外題】 〔四九〕 花雪歌清水

【読み】 〔四九〕 はなふぶきうたのきよみず

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】市岡和七、並木左衛門

【版元】内茶屋

【演者】市川団藏、片岡市藏、嵐徳三郎、中山よしを、

三枅源之助、中村歌寿郎、藤川花友、実川延三

郎、尾上登龍、小川吉太郎

N 025

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保十四年（1843）〕卯三月吉日

【外題】（五〇）伽羅先代萩

（五一）姫山姥

【読み】（五〇）めいぼくせんだいはぎ

（五一）こもちやまんば

【座本】市川団治郎

【狂言作者】市岡和七、並木左衛門

【版元】内茶屋

【演者】市川団藏、中山よしを、三枅源之助、中村歌寿

郎、藤川花友、実川延三郎、尾上登龍、中村友

三、中山一徳

N 026

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保二年（1831）〕卯九月吉日

【外題】（五二）忠孝誉二街

【読み】（五二）ちゅうこうほまれのふたみち

【座本】嵐徳三郎

【狂言作者】奈河衆助、近松正橘

【版元】内茶屋

【演者】片岡仁左衛門、浅尾為十郎、嵐かのふ、浅尾内

匠、中山よし、嵐璃光、嵐三五郎、坂東国五

郎

N 027

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十四年（1843）〕 卯霜月吉日

【外題】（五三）菅原伝授手習鑑

（五四）御恵月景清

【読み】（五三）すがわらでんじゅてならいかのみ

（五四）おんめぐみつきのかげきよ

【座本】 市川友之助

【狂言作者】 南坡東助、金沢蝶三

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、大谷友右衛門、中村歌六、市川鰈

十郎、市川米十郎、山下金作、市川男女蔵、中

山文五郎

N 028

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十四年（1843）〕 卯五月吉日

【外題】（五五）木下蔭狭間（合戦）

（五六）織合檻樓錦

【読み】（五五）このしたかげはざまかつせん

（五六）おりあわせつづれのにしき

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 市川和七、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、片岡市蔵、中村芝蔵、中山よしを、

三枅源之助、実川延三郎、藤川花友、中村友

三、中山一徳

N 029

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十四年（1843）〕 卯五月吉日

【外題】（五七）敵討天下茶屋聚

（五八）無宿団七時雨傘

【読み】（五七）かたきうちてんかぢややむら

（五八）やどなしだんしちしぐれのからかさ

【座本】 尾上和市

【狂言作者】 並木五瓶、近松慈輔

【版元】 内茶屋

【演者】 尾上多見蔵、大谷友右衛門、中村歌六、浅尾与

六、嵐徳三郎、中山文七、市川鰍寿郎、嵐三右

衛門、嵐冠十郎

N o 3 0

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年(1843)〕 卯九月吉日

【外題】 (五九) 有職鎌倉山

(六〇) 苅萱桑門筑紫■(■は車偏に榮)

(六一) 義臣伝説切講釈

【読み】 (五九) ゆうしよくかまくらやま

(六〇) かるかやどうしんつくしのいえずと

(六一) ぎしんでんよみさきこうしやく

【座本】 市川友之助

【狂言作者】 鱸鼎助

【版元】 内茶屋

【演者】 浅尾与六、中村巴丈、浅尾奥山、中村歌寿郎、

中村歌七、浅尾与作、藤川花友、中村梅花

N o 3 1

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年(1843)〕 卯三月吉日

【外題】 (六二) 伽羅先代萩

(六三) 軀山姥

【読み】 (六二) めいぼくせんたいはぎ

(六三) こもちやまんば

【座本】 市川团治郎

【狂言作者】 市岡和七、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川团蔵、中山よしを、三枡源之助、中村歌寿

郎、藤川花友、実川延三郎、尾上登龍、中村友

三、中山一徳

N 032

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯八月吉日

【外題】 （六四） 姉妹達大礎

【読み】 （六四） あねいもとだてのおおきど

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 沢嵐納老、市岡和七

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、片岡市蔵、三柝源之助、嵐璃寛、中

村巴丈、中山よしを、中村友三、藤川花友、市

川友蔵、中村友三

N 033

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯九月吉日

【外題】 （六五） 八陣守護城

（六六） 韓和聞書帖

（六七） 五大力恋絨

【読み】 （六五） はちじんしゅごのほんじょう

（六六） からやまときがきぎぞうし

（六七） ごだいきこいのふうじめ

【座本】 市川団治郎

【狂言作者】 沢嵐納老、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、片岡市蔵、三柝源之助、嵐璃寛、中

村巴丈、中山よしを、市川森之助、中村友三、

中山一徳、三柝大三郎

N 034

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保十四年（1843）〕 卯三月吉日



【外題】(六八) 敵討巖流嶋

(六九) 釜淵双綴巴

【読み】(六八) かたきうちがなりゆうじま

(六九) かまがぶちふたつどもえ

【座本】尾上和市

【狂言作者】沢嵐納老、槌井豊作

【版元】内茶屋

【演者】片岡市藏、中村歌六、大谷友右衛門、嵐徳三

郎、市川歌寿郎、嵐三右衛門、浅尾友藏、嵐冠

十郎、中山文五郎、中山文七

N 035

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年(1844)〕辰盆がはり

【外題】(七〇) 契情品評林

(七二) 織合団七篇

【読み】(七〇) けいせいしなさだめ

(七二) おりあわせだんしちじま

【座本】市川市之助

【狂言作者】西沢一鳳軒、南坡東助

【版元】内茶屋

【演者】片岡市藏、嵐璃珥、市川鰈十郎、山下金作、市

川小团治、藤川花友、中山よしを、中山一徳

N 036

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年(1844)〕辰九月吉日

【外題】(七二) 伊達姿萩燕都裙

(七三) 嫗山姥五百機錦

【読み】(七二) だてすがたはぎのえどづま

(七三) こもちやまんばいはたにしき

【座本】市川市之助

【狂言作者】西沢一鳳軒、南坡東助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、浅尾与六、中山文七、中山南枝、

市川鰍十郎、藤川花友、叶雛助、中山文五郎、

市川猿蔵

N 037

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年（1844）〕辰正月吉日

【外題】（七四）けいせい薺佳節

（七五）戻駕色合肩

【読み】（七四）けいせいなすなのせつく

（七五）もどりがごいろにあいかた

【座本】市川団治郎

【狂言作者】近松慈輔

【版元】内茶屋

【演者】片岡市蔵、市川団蔵、三枡源之助、尾上多見

蔵、実川延三郎、中村巴丈、中山よしを、中村

友三、中村歌七

N 038

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年（1844）〕辰三月吉日

【外題】（七六）仮名手本忠臣蔵

（七七）魁源平躑躅

【読み】（七六）かなでほんちゅうしんぐら

（七七）さがけけんぺいつつじ

【座本】市川友之助

【狂言作者】西沢一鳳軒、南坡東助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、市川団蔵、叶雛助、大谷友右衛

門、嵐璃寛、市川鰍十郎、市川団七

N 039

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年（1844）〕辰正月吉日

【外題】（七八）けいせい石川染

（七九）国性爺合戦

【読み】（七八）けいせいいかわぞめ

（七九）こくせんやかっせん

【座本】市川友之助

【狂言作者】西沢一鳳軒、並木左衛門

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、市川団蔵、叶雛助、大谷友右衛

門、嵐璃寛、市川鰍十郎、市川団七、市川小団

治、山下金作、瀬川路之助

N o 4 0

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年（1844）〕辰盆がはり

【外題】（八〇）祇園祭礼信仰記

（八一）花相撲蝶々紋日

【読み】（八〇）ぎおんさいれいしんこうき

（八一）はなずもうちようちようのものび

【座本】市川市松

【狂言作者】西沢一鳳軒、南坡東助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、中山よしを、大谷友右衛門、片岡

市蔵、浅尾与六、市川鰍十郎、嵐璃寛、叶雛助

N o 4 1

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化元年（1844）〕辰三月吉日

【外題】（八二）菅原伝授手習鑑

（八三）信田森弥生葛葉

【読み】（八二）すがわらでんじゅてならいかのみ

（八三）しのだのもりやよくずのは

【座本】市川団治郎

【狂言作者】金史朗、辰岡万治

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団藏、片岡市藏、三杵源之助、嵐珉子、中

山よしを、中村友三、市川友藏、藤川八藏

N 0 4 2

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保四年（1833）〕 巳正月吉日

【外題】 （八四） 姫競双葉絵草紙

【読み】 （八四） ひめくらべふたばえぞうし

【座本】 嵐竹治郎

【狂言作者】 奈河政橘、奈河泉助

【版元】 内茶屋

【演者】 実川額十郎、中村歌六、沢村国太郎、浅尾与

六、嵐璃寛、岩井紫若、浅尾工左衛門、市川助

十郎

N 0 4 3

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保四年（1833）〕 巳三月吉日

【外題】 （八五） 有職鎌倉山

（八六） 信州川中嶋合戦

（八七） 東訛恋深川

【読み】 （八五） ゆうしよくかまくらやま

（八六） しんしゅうかわなかしまかつせん

（八七） えどなまりこいのふかがわ

【座本】 嵐竹治郎

【狂言作者】 奈河政橘、奈河泉助

【版元】 内茶屋

【演者】 実川額十郎、浅尾国五郎、中村歌六、嵐璃寛、

市川助十郎、浅尾工左衛門、市川虎藏、中山南

枝

N 0 4 4

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保四年（1833）〕 巳九月吉日

【外題】（八八） 嶋廻月弓張

【読み】（八八） しめめぐりつきのゆみはり

【座本】 嵐三津橋

【狂言作者】 奈河政橋、奈河泉助

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、中村歌六、沢村国太郎、嵐璃

光、嵐吉三郎、嵐璃寛、岩井紫若、小川吉太

郎、浅尾工左衛門、市川虎藏

No 45

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化二年（1845）〕 巳九月吉日

【外題】（八九） 嫁入信田棲

（九〇） 源平布引瀧

（九一） 恋湊博多諷

【読み】（八九） よめいりしのだづま

（九〇） げんぺいぬのびきのたき

（九一） こいみなとはかたのひとふし

【座本】 市川米藏

【狂言作者】 西沢一鳳軒、嶺琴八十助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老藏、実川延三郎、三枡源之助、中村巴

丈、中村歌六、嵐璃寛、嵐璃珪、中山文五郎、

叶雛助、中村友三

No 46

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化二年（1845）〕 巳正月吉日

【外題】（九二） けいせい玉手綱

（九三） 松朝霞粉色

【読み】（九二） けいせいたまたづな

（九三） まつのあさかすみのいろどり

【座本】市川友之助

【狂言作者】近松慈甫、嶺琴八十助

【版元】内茶屋

【演者】中山南枝、尾上多見藏、山下金作、中村歌寿

郎、片岡我童、嵐三右衛門、中村巴丈、嵐冠十

郎、浅尾与六、小川吉太郎

N 0 4 7

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化二年（1845）〕巳九月吉日

【外題】（九四）嫁入信田棲

（九五）源平布引瀧

（九六）恋湊博多諷

【読み】（九四）よめいりしのだづま

（九五）げんぺいぬのびきのたき

（九六）こいみなとはかたのひとふし

【座本】市川米蔵

【狂言作者】西沢一鳳軒、嶺琴八十助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、実川延三郎、三枡源之助、中村巴

丈、中村歌六、嵐璃寛、嵐璃珪、中山文五郎、

叶雛助、中村友三

N 0 4 8

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化二年（1845）〕巳三月吉日

【外題】（九七）一谷嫩軍記

（九八）小野道風青柳硯

（九九）重井筒

（一〇〇）福在原系図

【読み】（九七）いちのたにふたばぐんき

（九八）おののとうふうあおやぎすずり

（九九）かさねいづつ

（一〇〇）さいわいありわらけいず

【座本】市川友之助

【狂言作者】近松慈甫、奈河一洗

【版元】内茶屋

【演者】尾上多見蔵、中山南枝、中村歌寿郎、片岡我

童、嵐三右衛門、中村巴丈、嵐富三郎、実川勇

次郎

N 0 4 9

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化二年（1845）〕巳八月吉日

【外題】（二〇二）けいせい廓船調

（二〇二）噂有東土座

【読み】（二〇二）けいせいさとのふなうた

（二〇二）うわさあるえとのみやげ

【座本】尾上多見二郎

【狂言作者】近松慈甫、奈河一洗

【版元】内茶屋

【演者】尾上多見蔵、中山南枝、中村歌寿郎、実川延三

郎、嵐三右衛門、中村千之助、嵐富三郎、嵐冠

十郎、姉川仲蔵

N 0 5 0

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】弘化二年（1845）巳正月吉日

【外題】（二〇三）けいせい英草紙

【読み】（二〇三）けいせいはなぶさざうし

【座本】市川米蔵

【狂言作者】西沢一鳳軒

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、実川延三郎、浅尾与六、中村歌

六、叶雛助、嵐璃寛、市川鰯十郎、市川小团

治、中山文七、中村友三

N 0 5 1

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午五月吉日

【外題】（二〇四）敵討崇禪寺馬場

（二〇五）競伊勢物語

（二〇六）関取千両幟

【読み】（二〇四）かたきうちそうぜんじばば

（二〇五）はでくらべいせものがたり

（二〇六）せきとりせんりようのぼり

【座本】市川猿松

【狂言作者】西沢一鳳軒

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、三桥次郎、市川鰯十郎、中村歌

六、中山文七、嵐吉三郎、嵐璃珪、叶雛助、中

村巴丈、中山文五郎

N 052

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午十一月吉日

【外題】（二〇七）姉妹達大礎

（二〇八）義経腰越状

（二〇九）延紙の書置

【読み】（二〇七）あねいもとだてのおおきど

（二〇八）よしつねこしごえじよう

（二〇九）のべがみのかきおき

【座本】市川猿松

【狂言作者】金沢栄助、木場辰助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、市川小团治、嵐富三郎、中山南

枝、嵐璃珪、実川勇次郎、姉川仲蔵、沢村源之

輔、市川猿蔵

N 053

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付



【上演年月日】〔天保五年（1834）〕午十月吉日

【外題】（二一〇）男哉婦将門

（二一一）重井筒

（二一二）傾城反魂香

【読み】（二一〇）おとこなりけりおんなまさかど

（二一一）かさねいづつ

（二一二）けいせいはんごんこう

【座本】中村鶴之助

【狂言作者】〔西沢一鳳〕

【版元】内茶屋

【演者】中村芝翫、中村富十郎、浅尾国五郎、嵐かのふ、中村歌七、市川虎蔵、中村鶴助、中村梅花、中村東蔵

N054

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午七月吉日

【外題】（二一三）天満宮菜種御供

（二一四）国性爺合戦

（二一五）姫山姥

【読み】（二一三）てんまんぐうなたねのごくう

（二一四）こくせんやかっせん

（二一五）こもちやまんば

【座本】市川米蔵

【狂言作者】嶺琴舎菊種、並木左衛門

【版元】内茶屋

【演者】実川延三郎、三桥大五郎、中山南枝、中村歌寿郎、嵐璃寛、市川市紅、嵐三右衛門、小川吉太郎、中村友三

N055

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午七月吉日

【外題】（二一六）内百番富士太鼓

【(一七)】 かさねが淵恋柵

【(一八)】 世話料理八百屋献立

【(一九)】 壇浦兜軍記

【(二〇)】 影猿七尺

【読み】 (一六) うちひやくばんふじのたいこ

(一七) かさねがふちこいのしがらみ

(一八) せわりよりやおやのこんだて

(一九) だんのうらかぶとぐんき

(二〇) しのかげさるもしちしやく

【座本】 市川猿松

【狂言作者】 金沢栄助、木場辰助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、中村歌六、市川小団治、市川三

猿、嵐璃珪、市川高麗蔵、市川鰈十郎、姉川仲

蔵、叶雛助、中村梅花

N 056

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (弘化三年(1846)) 午三月吉日

【外題】 (二二) 仮名手本忠臣蔵

【読み】 (二二) かなでほんちゅうしんぐら

【座本】 市川米蔵

【狂言作者】 嶺琴舎菊種、並木左衛門

【版元】 内茶屋

【演者】 実川延三郎、三桥大五郎、中村歌寿郎、嵐璃

寛、市川市紅、嵐三右衛門、中山南枝、小川吉

太郎、中村友三

N 057

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (弘化三年(1846)) 午五月吉日

【外題】 (二三) 敵討崇禪寺馬場

(二三) 競伊勢物語

(二四) 関取千両幟

【読み】(一二二) かたさうちそうぜんじば

(一二三) はでくらべいせものがたり

(一二四) せきとりせんりょうのぼり

【座本】市川猿松

【狂言作者】〔西沢一鳳、嶺琴松助〕

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、市川蝦十郎、中村歌六、嵐吉三

郎、嵐璃珉、中村巴丈、中山文七、叶雛助、沢

村源之助

N 058

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年(1846)〕午三月吉日

【外題】(一二五) 柵自来也談

(一二六) 八陣守護城

【読み】(一二五) やえむすびじらいやものがたり

(一二六) はちじんしゅごのほんじょう

【座本】市川猿松

【狂言作者】〔西沢一鳳軒〕

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、中村歌六、嵐吉三郎、嵐璃珉、中

村巴丈、市川蝦十郎、中山文七、叶雛助、中山

文五郎、沢村源之助

N 059

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年(1846)〕午三月吉日

【外題】(一二七) 仮名手本忠臣蔵

(一二八) 旅路乃花聲

【読み】(一二七) かなでほんちゅうしんぐら

(一二八) たびじのはなむこ

【座本】市川猿松

【狂言作者】〔西沢一鳳軒〕

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、中村歌六、市川鰍十郎、嵐吉三郎、

嵐璃珢、中村巴丈、中山文五郎、中山文七、叶

雛助、嵐冠十郎

N o 6 0

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午正月吉日

【外題】（一二九）花雪歌清水

（一二〇）一谷嫩軍記

（一二一）助六由縁江戸桜

（一二二）熊坂物見松

【読み】（一二九）はなぶきうたのなどころ

（一二〇）いちのたにふたばぐんき

（一二一）すけろくゆかりのえどざくら

（一二二）くまさかものみのまつ

【座本】市川猿松

【狂言作者】嶺琴舎菊種、松鱸亭助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、中村歌六、市川鰍十郎、嵐吉三

郎、嵐璃珢、中村巴丈、中山文七、叶雛助、嵐

冠十郎、中山文五郎

N o 6 1

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午正月吉日

【外題】（一二三）けいせい浜真砂

（一二三）未熟ちよつと五変化

【読み】（一二三）けいせいはまのまさぐさ

（一二三）およばずながらちよつといつげけ

【座本】市川米蔵

【狂言作者】嶺琴八十助、並木左衛門

【版元】内茶屋

【演者】三耕大五郎、実川延三郎、中村歌寿郎、中山南

枝、嵐璃寛、市川市紅、嵐三右衛門、中村友

三、小川吉太郎

No 62

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化三年（1846）〕午九月吉日

【外題】（一三四）秋葉権現廻船話

（一三五）恋女房染分手綱

（一三六）鐘鳴今朝嚙

（一三七）浮名の春雨

【読み】（一三四）あきはごんげんかいせんばなし

（一三五）こうにようぼうそめわけたづな

（一三六）かながなるけさのうわさ

（一三七）うきなのはるさめ

【座本】市川米蔵

【狂言作者】並木左衛門、松鱸亭助

【版元】内茶屋

【演者】三枅大五郎、小川吉太郎、中山南枝、嵐璃寛、

No 63

市川市紅、実川延三郎、中村歌寿郎、中村友三

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕未七月吉日

【外題】（一三八）絵本殿下茶屋聚

（一三九）京羽二重新雛形

【読み】（一三八）えほんでんかぢややむら

（一三九）きようはぶたえかわりひながた

【座本】中村駒之助

【狂言作者】並木左工門、槌井豊作

【版元】内茶屋

【演者】三枅大五郎、中山南枝、小川吉太郎、実川延三

郎、市川市紅、嵐三右衛門、中村友三

No 64

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕未九月吉日

【外題】（二四〇）契情廓源氏

（二四一）重井筒

（二四二）鬼一法眼三略巻

（二四三）男作五雁金

【読み】（二四〇）けいせいくるわげんじ

（二四一）かさねいづつ

（二四二）さいちほうげんさんりやくのまき

（二四三）おとこだていつつかりがね

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】 並木左エ門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、三枡大五郎、実川延三郎、市川市

紅、嵐三右衛門、小川吉太郎、中山南枝、中村

友三

N 065

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕未正月吉日

【外題】（二四四）花魁茗八総

（二四五）由良湊千軒長者

【読み】（二四四）はなのあにつばみのやつふさ

（二四五）ゆらのみなとせんげんちようじゃ

【座本】 市川米蔵

【狂言作者】 嶺琴舎菊種、松鱸亭助

【版元】 内茶屋

【演者】 実川延三郎、片岡市蔵、三枡大五郎、中山南

枝、嵐璃寛、市川市紅、嵐三右衛門

N 066

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕未正月吉日

【外題】（二四六）けいせい飛馬始

(一四七) 神靈矢口渡

【読み】(一四六) けいせいひめはじめ

(一四七) しんれいやぐちのわたし

【座本】市川猿松

【狂言作者】金沢栄助

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、市川小団治、中村歌六、山下金

作、嵐吉三郎、嵐璃珉、坂東寿太郎、浅尾工左

衛門、中山文七

N 0 6 7

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未十月吉日

【外題】(一四八) 太平記忠臣講釈

【読み】(一四八) たいへいきちゅうしんこうしゃく

【座本】中村富三郎

【狂言作者】金澤龍玉、奈河泉助

【版元】内茶屋

【演者】中村歌右衛門、関三十郎、片岡仁左衛門、中村

富士郎、嵐璃寛、中村歌六、浅尾与六、山下金

作、片岡我童

N 0 6 8

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保六年(1835)〕未五月吉日

【外題】(一四九) 花櫓詠吉野

(一五〇) 源九郎狐御利生

(一五一) 三枚続絵馬彩色

【読み】(一四九) はなやぐらひとめせんぼん

(一五〇) げんくろうぎつねごりしょう

(一五一) さんまいつづきえまのさいしき

【座本】中村富三郎

【狂言作者】金澤吾輔、西沢綺語堂

【版元】内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、中村芝翫、中村富十郎、浅尾与六、中村鶴助、山下金作、中村東蔵、小川吉太郎  
郎

N 0 6 9

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔天保六年（1835）〕 未四月吉日

【外題】 〔一五二〕 契情箱伝授

〔一五三〕 伊勢音頭恋寝ぬ

【読み】 〔一五二〕 けいせいはこでんじゅ

〔一五三〕 いせおんどこいのねたば

【座本】 中村富三郎

【狂言作者】 綺語堂、金沢吾輔

【版元】 内茶屋

【演者】 片岡仁左衛門、坂東寿太郎、中村富十郎、中村

芝翫、浅尾与六、小川吉太郎、市川虎蔵

N 0 7 0

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔弘化四年（1847）〕 未九月吉日

【外題】 〔二五四〕 契情廓源氏

〔二五五〕 重井筒

〔二五六〕 鬼一法眼三略巻

〔二五七〕 男作五雁金

【読み】 〔二五四〕 けいせいくるわげんじ

〔二五五〕 かさねいづつ

〔二五六〕 きいちほうげんさくりやくのまき

〔二五七〕 おとこだていつつかりがね

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】 並木左エ門、槌井豊作

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、三耕大五郎、中山南枝、小川吉太

郎、実川延三郎、市川市紅、嵐三右衛門、中村

友三



N 071

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕 未三月吉日

【外題】（二五八） 太功出世染

（二五九） 奥州安達原

（二六〇） 桂川連理柵

【読み】（二五八） たいこうしゅつせぞめ

（二五九） おうしゅうあだちがはら

（二六〇） かつらがわれんりのしがらみ

【座本】 市川米蔵

【狂言作者】 嶺琴舎菊種、並木左エ門

【版元】 内茶屋

【演者】 三枅大五郎、実川延三郎、嵐璃寛、中山南枝、

小川吉太郎、中村友三、市川市紅、嵐三右衛門

N 072

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）〕 未九月吉日

【外題】（二六一） けいせい花大樹

（二六二） 三十三間堂棟由来

【読み】（二六一） けいせいはなのこのした

（二六二） さんじゅうさんげんどうむなぎのゆ

らい

【座本】 市川助太郎

【狂言作者】 金史朗、木場辰助

【版元】 内茶屋

【演者】 坂東寿太郎、嵐吉三郎、山下金作、尾上梅鶴、

小川吉太郎、姉川新四郎、嵐三右衛門、嵐かの

ふ

N 073

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】弘化四年（1847）未七月吉日

【外題】（二六三）絵本殿下茶屋聚

（二六四）京羽二重新雛形

【読み】（二六三）えほんてんがぢややむら

（二六四）きようはぶたえかわりひながた

【座本】中村駒之助

【狂言作者】並木左工門、槌井豊作

【版元】内茶屋

【演者】三枅大五郎、実川延三郎、片岡市藏、中山南枝、小川吉太郎、中村友三、市川市紅、嵐三右

衛門

N 074

【地域】大阪

【座】竹田芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）未十一月吉日〕

【外題】（二六五）近江源氏先陣館

（二六六）義臣伝読切講釈

（二六七）双紋廓錦絵

【読み】（二六五）おうみげんじせんじんやかた

（二六六）ぎしんでんよみきりこうしゃく

（二六七）ひよくもんくるわのにしきえ

【座本】実川延之助

【狂言作者】嶺琴舎八十助、並木左工門

【版元】本清

【演者】片岡市藏、三枅大五郎、市川市紅、中山南枝、中村友三、嵐三右衛門、尾上芙蓉

N 075

【地域】大阪

【座】〔角の芝居〕

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化四年（1847）未三月吉日〕

【外題】（二六八）絵合太功記

（二六九）関取二代鑑

（二七〇）色読販

【読み】（二六八）えあわせたいこうき

(一六九) せきとりにだいかがみ

(一七〇) うきな の よみうり

【座本】市川猿松

【狂言作者】金澤栄助

【版元】〔内茶屋〕

【演者】市川海老蔵、嵐璃珢、坂東寿太郎、嵐富三郎、

山下金作、浅尾工左衛門、市川小団治、嵐吉三

郎

N 076

【地域】大阪

【座】若太夫芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化四年(1847)〕未三月吉日

【外題】(一七二) 菅原伝授手習鑑

(一七二) 傾城反魂香

(一七三) 壇浦兜軍記

(一七四) 師影猿人真似

【読み】(一七一) すがわらでんじゆてならいかがみ

(一七二) けいせいはんごんこう

(一七三) だんのうらかぶとぐんき

(一七四) しのかげおさるもひとまね

【座本】市川高麗猿

【狂言作者】木場延助、嶺岸浜助

【版元】本清

【演者】市川猿蔵、市川高麗猿、嵐芳三郎、市川米蔵、

市川猿松、中村梅蔵、三柝稻丸、坂東新三郎

N 077

【地域】大阪

【座】若宮芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔弘化四年(1847)〕未八月吉日

【外題】(一七五) 濃紅葉小倉色紙

(一七六) 大塔宮職鑑

(一七七) 国訛嫩笈摺

(一七八) 藍桔梗雁金五紋

【読み】(一七五) こいもみじおぐらのしきし

【座本】市川高麗猿

【狂言作者】松鱸亭助

【版元】本清

【演者】市川海老蔵、坂東寿太郎、嵐璃寛、嵐璃珪、山下金作、中山文七、姉川新四郎、嵐吉三郎

【地域】京都

【座】四条北側芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】嘉永元年（1848）申霜月吉日

【外題】（二七九）寿式三

（二八〇）菅原伝授手習鑑

（二八一）碁太平記白石噺

（二八二）大都会見取曾我

【読み】（二七九）ことぶきしきさん

（二八〇）すがわらでんじゅてならいかガミ

（二八一）ごたいへいきしらいしばなし

（二八二）だいとかいみとりそが

【名代】早雲長太夫、亀谷衆之丞

【狂言作者】〔八文舎菊雄、並木五瓶〕

【演者】市川海老蔵、坂東寿太郎、嵐璃寛、嵐璃珪、山下金作、中山文七、大川橋蔵、嵐三右衛門、川市紅、中村仲蔵

【備考】番付上・下二枚綴りの下

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】（嘉永元年（1848）申九月吉日

【外題】（二八三）彦山権現誓助剱

（二八四）菅原伝授手習鑑

（二八五）双蝶々曲輪日記

【読み】（二八三）ひこさんごんげんちかいのすけだち

(一八四) すがわらでんじゆてならいかがみ  
(一八五) ふたつちようちようくるわにつき

【座本】 市川猿松

【狂言作者】 並木五瓶、鶴屋南北

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、市川助寿郎、嵐璃寛、市川市紅、

嵐三右衛門、中山文七、大谷広右衛門

N 080

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (嘉永元年 (1848)) 申正月吉日

【外題】 (一八六) けいせい曾我鎌倉■ (■は金偏に集)

【読み】 (一八六) けいせいそがかまくらだいじん

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】 鶴屋南北、並木左エ門

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、三枏大五郎、実川勇次郎、中山南

枝、実川延三郎、嵐三右衛門、市川市紅、中村  
友三

N 081

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 (嘉永元年 (1848)) 申正月吉日

【外題】 (一八七) けいせい忍術池

(一八八) 楠昔噺

(一八九) 春興恵方曙

【読み】 (一八七) けいせいしのばすがいけ

(一八八) くすのきむかしばなし

(一八九) しゅんきようえほうのあけぼの

【座本】 嵐珪之助

【狂言作者】 金史朗、奈河寿助

【版元】 内茶屋

【演者】 嵐吉三郎、坂東寿太郎、浅尾与六、山下金作、

嵐璃珪、市川市紅、姉川新四郎、小川吉太郎

N 082

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永元年（1848）〕申三月吉日

【外題】（一九〇）いろは仮名四十七訓

【読み】（一九〇）いろはがなしじゅうしちくん

【座本】中村駒之助

【狂言作者】鶴屋南北、並木左エ門

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、三橋大五郎、中山南枝、実川勇次郎、実川延三郎、市川市紅、嵐三右衛門、中村

友三

N 083

【地域】大阪

【座】若太夫芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永元年（1848）〕申五月吉日

【外題】（一九一）ひらかな盛衰記

（一九二）彦山権現誓助鉞

（一九三）生写朝顔話

【読み】（一九一）ひらかなせいすいき

（一九二）ひこさんごんげんちかいのすけだち

（一九三）しょううつしあさがおばなし

【座本】中村政次郎

【狂言作者】嶺琴舎八十助、槌井豊作

【版元】本清

【演者】三橋大五郎、中山南枝、実川勇次郎、実川延三

郎、市川市紅、嵐三右衛門、中村友三、坂東大八

N 084

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永元年（1848）〕申三月吉日

【外題】（一九四）敵討巖流島

(一九五) 染模様妹背門松

【読み】(一九四) かたさうちがなりゆうじま

(一九五) そめもよういもせのかどまつ

【座本】嵐珥之助

【狂言作者】島田篤瓶、揚羽蝶三

【版元】内茶屋

【演者】浅尾与六、坂東寿太郎、山下金作、嵐璃珥、市

川市紅、浅尾与作、姉川新四郎、小川吉太郎、

岩井紫若

N 085

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永元年(1848)〕申五月吉日

【外題】(一九六) 伊賀越乗掛合羽

(一九七) 須磨都源平躑躅

(一九八) 極彩色娘扇

(一九九) 姫山姥

【読み】(一九六) いがごえのりかけがつぱ

(一九七) すまのみやこげんぺいつつじ

(一九八) ごくさいしきむすめおうぎ

(一九九) こもちやまんば

【座本】嵐珥之助

【狂言作者】三ッ栄九馬造

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、中村玉七、市川梅蔵、市川猿松、

中村森蔵、三柝稲丸、中村芝太郎、市川巳之

助、尾上鶴松

N 086

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永元年(1848)〕申八月吉日

【外題】(二〇〇) 花都矢数誉

(二〇一) 東都産伊達雛形

【読み】(二〇〇) はなのみやこやかずのほまれ

(二〇一) あずまみやげだてのひながた

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】 並木五瓶、並木左エ門

【版元】 内茶屋

【演者】 大川橋藏、三枅大五郎、中村大吉、中山南枝、

実川延三郎、市川市紅、中村友三

N 0 8 7

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔嘉永元年（1848）〕 申八月吉日

【外題】 (二〇二) 三国大市川封恋

(二〇三) 碁太平記白石噺

【読み】 (二〇二) さんごくいちつのくろもの

(二〇三) こたいへいきしらいしはなし

【座本】 市川猿松

【狂言作者】 並木五瓶、鶴屋南北

【版元】 内茶屋

【演者】 大川橋藏、市川海老藏、市川助寿郎、嵐寛、市

川市紅、嵐三右衛門、中山文七、坂東簀助

N 0 8 8

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔嘉永元年（1848）〕 申九月吉日

【外題】 (二〇四) 長柄長者黄鳥墳

(二〇五) 御所桜堀川夜討

(二〇六) 恋飛脚大和往来

【読み】 (二〇四) ながらちようじゃうぐいすづか

(二〇五) ごしよざくらほりかわようち

(二〇六) こいのたよりやまとおうらい

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】 並木左エ門、槌井豊作

【版元】 内茶屋

【演者】 三枅大五郎、中山南枝、中村大吉、実川延三

郎、市川市紅、尾上松寿、中村友三、実川勇次



郎

N 0 8 9

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 嘉永二年（1849）酉正月吉日

【外題】（二〇七） けいせい石川染

【読み】（二〇七） けいせいしかわぞめ

【座本】 中村駒之助

【狂言作者】（並木左工門、鶴屋南北）

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、片岡市蔵、三桥大五郎、中山南

枝、実川延三郎、尾上松寿、中村友三、市川市  
友

N 0 9 0

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 嘉永二年（1849）酉正月吉日

【外題】（二〇八） 花雪歌清水

（二〇九） けいせい青陽■（■は集偏に鳥）

（二一〇） 尾上岩藤後日話

【読み】（二〇八） はなふぶきうたのなごころ

（二〇九） けいせいはるのとて

（二一〇） おのえいわふじごじつのはなし

【座本】 市川亀太郎

【狂言作者】（金史朗、並木五瓶）

【版元】 内茶屋

【演者】 市川助寿郎、大川橋蔵、嵐璃寛、山下金作、中  
村大吉、姉川新四郎、浅尾与作、小川吉太郎

N 0 9 1

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 嘉永二年（1849）酉三月吉日

【外題】（二一一） 四天王伽藍鑑

(二二二) 桜舞台近江八景

【読み】(二二一) してんのうがらんかがみ

(二二二) さくらぶたいおうみはつけい

【座本】中村駒之助

【狂言作者】〔鶴屋南北、並木左工門〕

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、三耕大五郎、片岡市蔵、中山南

枝、実川延三郎、尾上松寿、中村友三、小川吉

太郎

N 0 9 2

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永二年（1849）〕酉四月吉日

【外題】(二二三) 仮名手本忠臣蔵

(二二四) 嬢景清八嶋日記

(二二五) 容侠出入湊

【読み】(二二三) かなでほんちゅうしんぐら

(二二四) むすめかげきやしまにつき

(二二五) すがたくらべでいりのみなと

【座本】市川亀太郎

【狂言作者】〔金史朗、松鱸亭助〕

【版元】内茶屋

【演者】市川助寿郎、山下金作、中村大吉、大谷広右衛

門、嵐璃寛、市川市紅、小川吉太郎

N 0 9 3

【地域】大阪

【座】竹田芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】嘉永二年（1849）酉四月吉日

【外題】(二二六) 合詞四十七文字

(二二七) 色読売

【読み】(二二六) あいことばしじゅうななもじ

(二二七) うきなのよみうり

【座本】嵐璃文蔵

【狂言作者】奈河晴助

【版元】 本清

【演者】 浅尾与六、山下金作、中山文七、嵐璃瑤、浅尾

市松、嵐寿瑤、姉川新四郎、紫崎林左衛門、叶

雛助、市川市十郎、中村友三

N 094

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔嘉永二年(1849)〕酉五月吉日

【外題】 (二二八) 碁太平記白石噺

(二二九) 平井権八吉原通

(二二〇) 契情青陽■(■は集偏に鳥)

(二二二) 言時花娘緋鹿子

(二二二) 小野道風青柳硯

(二二三) 御所桜堀川夜討

(二二四) 関取千両幟

【読み】 (二二八) ごたいへきしらいしばなし

(二二九) ひらいごんぱちよしわらがよい

(二二〇) けいせいはるのとり

(二二二) ときのはなむすめひがのこ

(二二三) おののとうふうあおやぎすずり

(二二三) ごしよざくらほりかわようち

(二二四) せきとりせんりょうのぼり

【座本】 市川玉猿

【狂言作者】 柳七五郎、浅田芝吉

【版元】 内茶屋

【演者】 市川米藏、中村玉七、市川猿藏、市川高麗藏、

中村梅藏、尾上鶴松、実川延之助、三枅稲丸、

芳沢円次郎

N 095

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔嘉永二年(1849)〕酉七月吉日

【外題】 (二二五) ひらかな盛衰記

(二二六) 夏祭浪花鑑

〔二二七〕 和田合戦女舞鶴

〔二二八〕 星猿槌玉踊

【読み】 〔二二五〕 ひらかなせいすいき

〔二二六〕 なつまつりなにわかがみ

〔二二七〕 わだかつせんおんなまいづる

〔二二八〕 ちぎりのえんたなばたまつり

【座本】 市川玉猿

【狂言作者】 木場延助、三ッ菊富女造

【版元】 内茶屋

【演者】 市川海老蔵、中村玉七、市川猿松、市川高麗

蔵、三柵稲丸、市川あかん平、中山樂之助、市

川米次郎、実川延之助

N 096

【地域】 大阪

【座】 竹田芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔嘉永二年（1849）〕 酉八月吉日

【外題】 〔二二九〕 源平布引瀧

〔二三〇〕 箱根靈驗壁仇討

〔三三一〕 信州於六櫛

【読み】 〔三二九〕 げんぺいぬのびきのたき

〔三三〇〕 はこねれいげんいざりのあだうち

〔三三一〕 しんしゅうおろくぐし

【座本】 市川米治郎

【狂言作者】 奈河政助、成田屋虎助

【版元】 内茶屋

【演者】 尾上松緑、姉川新四郎、中村歌四郎、片岡愛之

助、中村駒三郎、浅尾朝太郎、三柵徳次郎、嵐

蘭蔵、実川額之助

N 097

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 〔嘉永二年（1849）〕 酉八月吉日

【外題】 〔三三二〕 競伊勢物語

〔三三三〕 棹歌木津川八景

【読み】(二三二) はでくらべいせものごたり

(二三三) さおのうたきづがわはつけい

【座本】中村駒之助

【狂言作者】並木左工門、嶺琴八十助

【版元】市川海老蔵、三枘大五郎、中山南枝、片岡市

蔵、実川勇次郎、実川延三郎、尾上松寿、中山

文七、三枘源之助

【演者】

N 098

【地域】大阪

【座】角の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔嘉永二年(1849)〕酉九月吉日

【外題】(二三四) 越前三国夫婦塚

(二三五) 梶原平三紅梅豹

(二三六) 世話料理八百屋献立

(二三七) 須磨都源平躑躅

【読み】(二三四) えちぜんみくにめおとづか

(二三五) かじわらへいぞうこうばいたづな

(二三六) せわりようりやおやのこんだて

(二三七) すまのみやこげんぺいつつじ

【座本】市川玉猿

【狂言作者】〔嶺琴八十助、並木五瓶〕

【版元】内茶屋

【演者】市川海老蔵、尾上多見蔵、片岡市蔵、中山南

枝、姉川新四郎、実川延三郎、尾上松寿、市川

市友、叶寿

N 099

【地域】大阪

【座】中の芝居

【番付種別】役割番付

【上演年月日】〔天保九年(1838)〕戊正月吉日

【外題】(二三八) 仮名手本忠臣蔵

(二三九) 同計略花芳野山

【読み】(二三八) かなでほんちゅうしんぐら

(二三九) とばかりはなのよしのやま

【座本】 中村鶴之助

【狂言作者】 「奈河一泉、近松加造」

【版元】 内茶屋

【演者】 中村歌右衛門、中村歌六、浅尾工左衛門、山下

金作、嵐璃光、中山文七、中村友三、中村歌十

郎

N o 1 0 0

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「天保九年（1838）戊八月吉日

【外題】 （二四〇） 室町容笠播磨廻

（二四一） 紅筆恋取組

（二四二） 一谷嫩軍記

【読み】 （二四〇） むろまちがさはんしゅうめぐり

（二四一） はなめずらしきこいのとりくみ

（二四二） いちのたにふたばぐんき

【座本】 中村鶴之助

【狂言作者】 金澤龍玉、西沢李叟

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾与六、嵐かのぶ、小川吉太

郎、三枘源之助、中村芝翫、中村歌七、中村歌

十郎

N o 1 0 1

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】 「天保九年（1838）戊九月吉日

【外題】 （二四三） 契情品評林

（二四四） 蘆屋道満大内鑑

【読み】 （二四三） けいせいしなさだめ

（二四四） あしやどうまんおおうちかがみ

【座本】 中村鶴之助

【狂言作者】 金澤龍玉、西沢李叟

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾与六、中村歌七、小川吉太

郎、三枅源之助、中村芝翫、尾上多見蔵、山下  
金作、中村友三

No102

【地域】 大阪

【座】〔角の芝居〕

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔文政九年（1825）戌九月吉日〕

【外題】（二四五）伊賀越道中双六

【読み】（二四五）いがごえどうちゅうすごろく

【座本】 嵐吉之助

【狂言作者】 奈河熊造、奈河勘助

【版元】 内茶屋

【演者】 市川団蔵、大谷友右衛門、坂東寿太郎、中村歌

六、中山文七、浅尾額十郎、浅尾橋三郎、嵐富

三郎、嵐小六

No103

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十年（1839）亥三月吉日〕

【外題】（二四六）妹背山婦女庭訓

（二四七）撰州合邦辻

（二四八）福在原系図

（二四九）小栗判官車街道

【読み】（二四六）いもせやまおんなていきん

（二四七）せつしゅうがつぼうがつじ

（二四八）さいわいありわらけいず

（二四九）おぐりはんがんくるまかいどう

【座本】 中村富菊

【狂言作者】 世代野李叟

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、嵐璃珥、片岡我

童、中村歌十郎、嵐璃光、中山文七

No104

【地域】 大阪

【座】 中の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十年（1839）〕 亥正月吉日

【外題】（二五〇） ももちどり鳴門白浪

（二五二） 契情買指南所

【読み】（二五〇） ももちどりなるとのしらなみ

（二五二） けいせいがいしなどころ

【座本】 三枘大三郎

【狂言作者】 金澤龍玉、奈河一甫

【版元】 内茶屋

【演者】 坂東寿太郎、中村歌六、浅尾与六、中山よし

を、三枘源之助、中村芝翫、実川延三郎、嵐か

のふ

No105

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十年（1839）〕 亥正月吉日

【外題】（二五二） けいせい浜真砂

（二五三） 先代萩若栄

【読み】（二五二） けいせいほまのまゝい

（二五三） ちよのはるはぎのわかばえ

【座本】 中村富菊

【狂言作者】 世代軒李叟

【版元】 内茶屋

【演者】 中村富十郎、浅尾工左衛門、坂東三津五郎、片

岡我童、中村歌十郎、嵐璃光、叶雛助、小川吉

太郎

No106

【地域】 大阪

【座】 角の芝居

【番付種別】 役割番付

【上演年月日】〔天保十年（1839）〕 亥八月吉日

【外題】（二五四） 嶋原染七種模様

（二五五） 梶原平三紅梅鞆

【読み】（二五四） しまばらぞめななくさもよう

（二五五） かじわらへいぞうこうばいたづな



【座本】市川助太郎

【狂言作者】奈河董祐、阿也尚蜂

【版元】内茶屋

【演者】中村富十郎、浅尾工左衛門、中山よしを、中村

芝翫、片岡我童、中山文七、嵐璃光、中村友

三、中山一徳

## 上方芝居番付11『自天保十二年至弘化四年』

No	【地域】	【座】	【番付種別】	【上演年月日】	【外題】
No1	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕7月吉日	(1) 傾城百万国 けいせいひゃくまんこく
No2	京都	四条道場芝居	役割番付	天保12年(1841)7月吉日	(2) 廓獅花蕾草 くわしはなのとみき (3) 国性爺合戦 こくせいやあわせ
No3	京都	因幡薬師芝居	役割番付	天保12年(1841)7月吉日	(4) 桂川二世榊 かつらがわにせのしがらみ (5) 定家廻小倉色紙 さだめだわつづきのいろもみぢ (6) 隅田川続傳 すみだがわつづきのついで
No4	京都	四条道場芝居	役割番付	天保12年(1841)8月吉日	(7) 霧太郎天狗酒麩 きりたろうてんぬのさかぬり
No5	大阪	角の芝居	役割番付	丑8月吉日	(8) 敵討崇禎寺馬場 かたうちとせうてんじうばば (9) 大捕切曙 おおおどりきりあけのあけぼの
No6	京都	四条道場芝居	役割番付	天保12年(1841)10月吉日	(10) 敵討御簾前 かたうちとせうてんじうばば (11) 延紙の書置 のへがみづきおき
No7	京都	四条道場芝居	役割番付	天保13年(1842)1月吉日	(12) けいせい 廓半猿 けいせいひゃくはんざる (13) 境浦犯軍記 さかいのうらなふし (14) 室正月 むろのしやうがつ
No8	京都	誓願寺芝居	役割番付	天保13年(1842)1月吉日	(15) 傾城忍術流 けいせいにんぶつりゆう (16) 義経千本桜 よしかさねせんぼんざくら
No9	大阪	中の芝居	役割番付	寅1月吉日	(17) けいせい 就義 ■ (■は王の下に金偏に夫) けいせいしうぎ (18) 傾花傾城道成寺 けいけいけいけいどうじょう
No10	名古屋	大須芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕2月吉日	(19) 榊目来也談 さかめきやだん (20) 猿蓑門出調 さるもみぢでしやう
No11	京都	因幡芝居	役割番付	天保13年(1842)2月吉日	(21) けいせい 廓松飄 けいせいひゃくしょうひょう (22) 桂川連理榊 かつらがわれんりしやう
No12	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕2月吉日	(23) 鏡山再続傳 かがやまさいぞくでん (24) 伊勢音頭恋寝錦 いせおんどういのねだまき (25) 傾花傾城道成寺 けいけいけいけいどうじょう
No13	不明	天神社内北門芝居	役割番付	天保13年(1842)3月吉日	(26) 八陣守護城 はちじんしゆごのまんとじょう (27) 舞扇南何話 まいせんなんわだ
No14	〔名古屋〕	〔若宮芝居〕	役割番付	寅5月吉日	(28) 祇園祭礼信仰記 ぎやうさいれいしやうき (29) ちらし書廊文章 ちらししやうらふしやう (30) 東伝比翼傳 とうでんひよくでん (31) 心中浮名鮫鞘 しんじゆうなふしのさめざや
No15	大阪	天満芝居	役割番付	寅11月	(32) 刈萱桑門就義 ■ (■は車偏に榮) かりかきざんもんしうぎ (33) 義経千本桜 よしかさねせんぼんざくら
No16	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕1月吉日	(34) 花雪歌清水 はなゆきうたのみづみず
No17	名古屋	若宮芝居	役割番付	2月	(35) 二十四孝 にじゅうしこう (36) ●女鑑 おんなかん (37) 雷原 かみはら (38) 白石斷 しろいしはなし (39) 伊賀越 いがかこえ (40) 狭間 はざま (41) 八嶋日記 やしまにっき (42) 妹背門松 いもせのうらぶし (43) 花上野 はなの上のや (44) 犯軍記 かふしやうき

## 137 専修大学図書館所蔵 『上方芝居番付』…(五)

No18	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕2月吉日	(45)もちどり鳴門白浪 なるとのしらなみ (46)勝間幸源氏 かたまりきねはまげんじ (47)女鉢木 おんなはちのき (48)双蝶々曲輪日記 ふたつづらうりくるわにのつき
No19	大阪	北新地芝居	役割番付	卯3月吉日	(49)新らすゆき物語 かきよむきものがたり (50)鎌倉三代記 かまくらさんだいき (51)一谷嫩車記 いちのたにふたばぐんき (52)屋敷磨太全 やしきうすまがしぜん
No20	名古屋	若宮芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕4月吉日	(53)八陣守護城 はちじんしゅごのぼしじょう (54)夏祭浪花鑑 なつまつりなはながみ (55)堀山姥 うらやまは
No21	名古屋	若宮芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕5月15日	(56)仮名手本忠臣蔵 かぎでほんちゆうじんぞう (57)ひらかな盛衰記 ひはなかんせき
No22	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕5月吉日	(58)木下蔭次問合戦 このしたかげはなごせん (59)織公橋鑑錦 おりこうはしけんきん (60)袖硯伊賀越日記 そでえいいがえにのつき (61)花雲鍾浅草 はなばくしゆのはあさくさ (62)勢州阿漣浦 せしゅうあるいん
No24	大阪	筑後芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕4月吉日	(63)拳神鞭大通 けんしんべんどうつう (64)御所桜堀川夜討 ごしよさくらほりかわよちう (65)隅田春妓女客性 すみだはるぎよなきせう
No25	不明	不明	役割番付	不明	(66)傾城小倉色紙 けいせいこくらのもしし (67)けいせい石川築 けいせいいしかわづき (68)新吾桑田筑紫■(■は車偏に紫) しんごくわだづき (69)須磨都原平郷園 すまのみやこげんへいけつし
No26	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕9月吉日	(70)嫁入信田榎 けいりうしんたのき (71)源平布引灘 げんへいぬのきのみさき (72)恋海博多織 こひうみはかなみのひとふし
No27	大阪	筑後芝居	役割番付	弘化2年(1845)9月吉日	(73)けいせい稚児遊 けいせいきょうしあそび (74)大経師普曆 だいけいしふれき
No28	大阪	若太夫芝居	役割番付	弘化2年(1845)10月吉日	(75)本朝十四孝 ほんちゆうじしゆかう (76)妹背山婦女庭訓 いせやまおんなていぐん (77)鰐恋湊 たてくさこひのみなつき (78)御恵月景清 ごえいてつぎのきよきよ
No29	京都	四条南側芝居	役割番付	弘化2年(1845)11月吉日	(79)寿式三 ことぶきしきさん (80)伊賀越道中双六 いがえだちゅうちうさくろく (81)蘆屋道満大内鑑 あしやうだまんおうちけん
No30～31	京都	四条北側芝居	役割番付	弘化2年(1845)11月吉日	(82)寿式三 ことぶきしきさん (83)蘆屋道満大内鑑 あしやうだまんおうちけん (84)双蝶々曲輪日記 ふたつづらうりくるわにのつき (85)一谷嫩車記 いちのたにふたばぐんき (86)鏡山旧錦絵 かみやまきゅうのきにき
No32	大阪	筑後芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕1月吉日	(87)けいせい錦番橋 けいせいきんばんし
No33	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕1月吉日	(88)花恋清水 はなこひしみづ (89)一谷嫩車記 いちのたにふたばぐんき (90)助六由縁江戸桜 すけろくよゆかりえどざくら (91)坂城物見松 さかぎものみまつ

No34	京都	宮川町芝居	役割番付	弘化3年(1846)1月吉日	(92)けいせい <sup>しげしげや</sup> 落話 すだのはるけいこのあき
No35	大阪	中の芝居	役割番付	[弘化3年(1846)]1月吉日	(93)隅田春妓女客性 はまのまじご
No36	不明	不明	役割番付	年2月吉日	(94)けいせい <sup>おしほななめいひげ</sup> 派真砂 おしほななめいひげ
No37~38	京都	四条南側芝居	役割番付	弘化3年(1846)4月吉日	(95)熟ちよつと五変化 かみでほんちよんくろ
No39~40	京都	四条北側芝居	役割番付	弘化3年(1846)5月吉日	(96)仮名手本忠臣蔵 かみでほんちよんくろ
					(97)伽羅先代萩 かみでほんちよんくろ
					(98)東鑑御狩巻 かみでほんちよんくろ
					(99)義臣伝説切講釈 かみでほんちよんくろ
					(100)姫鏡轡轡扇 かみでほんちよんくろ
					(101)小野道風青柳硯 おののどうふうあおやなぎすり
					(102)礪山姥 とぎやまば
No41	京都	宮川町	役割番付	弘化3年(1846)5月	(103)祇園女御九重錦 ぎおんおんなごこのねのぼし
No42	京都	左女牛南側芝居	役割番付	弘化3年(1846)5月吉日	(104)伊達音頭恋寝鏡 なでおんだていのねはき
					(105)寿式 こととしき
					(106)総合太功記 あまむせたいこうき
					(107)鐘もろとも夢較精 かねもろともゆめくら
No43	京都	宮川町芝居	役割番付	弘化3年(1846)6月吉日	(108)夏祭浪花鑑 なつまつりななはなかん
					(109)ひらかな <sup>いすいさ</sup> 渡盛記 なつまつりななはなかん
No44	京都	宮川町芝居	役割番付	弘化3年(1846)8月吉日	(110)夏祭浪花鑑 なつまつりななはなかん
					(111)けいせい <sup>あめはなつな</sup> 染分縫 なつまつりななはなかん
No45~46	京都	四条北側芝居	役割番付	弘化3年(1846)11月吉日	(112)勢州阿漕浦 せいしゅうあそう
					(113)秋葉権現廻転話 あきはごんげんかいせんぽなし
					(114)恋女房染分手綱 こいようぼうそめわけたづな
					(115)敵討浦朝霧 かたきうりあさぎり
					(116)国性爺合戦 こくせんだいあひだ
					(117)鐘鳴今朝晴 かねなりけあはれ
No47	京都	四条南側芝居	役割番付	弘化3年(1846)11月吉日	(118)寿式二 こととしきに
					(119)敵討敵流鳴 かたきうりあさぎり
					(120)神靈矢口渡 かみでほんちよんくろ
					(121)隅田春妓女客性 はまのまじご
					(122)けいせい <sup>しんれいやぐちのわたし</sup> 飛馬始 しんれいやぐちのわたし
No48	大阪	角の芝居	役割番付	[弘化4年(1847)]1月吉日	(123)神靈矢口渡 かみでほんちよんくろ
					(124)近江源氏先陣節 おうかげんしせんじんふし
					(125)義経千本桜 よしかねせんぽんざくら

## 上方芝居番付12『天保十一年より嘉永四年』

No	【地域】	【座】	【番付種別】	【上演年月日】	【外題】
No1	大阪	中の芝居	役割番付	子10月吉日	(1)年懼口上 はなぐち
No2	大阪	角の芝居	役割番付	[天保11年(1840)]3月吉日	(2)花柳いろは評判 はなやういろはへやうばん
					(3)関取二代勝負付 せきとりだいにしやうぶくけ
					(4)仮名手本忠臣蔵 かみでほんちよんくろ
No3	大阪	角の芝居	役割番付	[天保11年(1840)]10月吉日	(5)平家女護鳴 へいけいよこのしや
					(6)種自來也談 しゅじらいやだん
					(7)伽羅先代萩 かみでほんちよんくろ
No4	大阪	角の芝居	役割番付	[文政11年(1828)]8月吉日	(8)大塔宮 鑑 おおのうのみやあきみのよるい
					(9)粧水絹川堤 けいすいぬいかわづつみ
					(10)男哉女鳴神 おとこなけりめいしん
No5	大阪	角の芝居	役割番付	[文政11年(1828)]9月吉日	(11)物ぐる太郎 ものぐるたろう
					(12)双紋廓錦絵 ふたもんがらにしきえ

139 専修大学図書館所蔵 『上方芝居番付』… (五)

No6	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕5月吉日	(13) 重頼歌の伊達染 かさねのうたはなをさづめ 重頼歌の伊達染
No7	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕7月吉日	(14) 傾城百万国 けいせいひゃくまんこく (15) 潮獅花富草 うしほしはなのみくさ
No8	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕9月吉日	(16) 敵討高砂松 かたきうちたかすのまつ (17) 恋女房染分手綱 こいじよぼうそめわけたづな
No9	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕9月吉日	(18) 聚情英妻御 いっせいせいさつまし (19) 敵嶋の写絵 かたしまのうゑ
No10	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕3月吉日	(20) 敵討殿流崎 かたきうちだんのりまき (21) 釜淵双紋巳 かまふちふたごも
No11	大阪	中の芝居	役割番付	〔文政12年(1829)〕3月吉日	(22) けいせい楊柳桜 けいせいやなぎうづ (23) 鏡山旧錦絵 かがやまふるにしき
No12	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕1月吉日	(24) けいせい楊柳桜 けいせいやなぎうづ (25) 浪花湯三津汐波 なみのうみみづしほ
No13	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保12年(1841)〕5月吉日	(26) けいせい整夜話 けいせいせいやわ (27) 伊勢音頭恋寝顔 いせおんどこいのねがほ
No14	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕1月吉日	(28) 傾城染分鏡 けいせいそめわけたづな
No15	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕10月吉日	(29) 絵本大功記 えほんだいたうき (30) 持丸長者黄金葬 もちまるちやうごうごんさう (31) 姫小松の目遊 ひめこまつめう
No16	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕8月吉日	(32) 紅楓いろは文庫 べにがきふくろふく (33) 名作切細嚙 なせきせき
No17	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕10月吉日	(34) 絵合大功記 えあひだいたうき (35) 頼政鶴物語 たのまさづるものがたり (36) 比翼島部山 ひよくしまやま
No18	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕10月吉日	(37) 絵合大功記 えあひだいたうき (38) 頼政鶴物語 たのまさづるものがたり (39) 比翼島部山 ひよくしまやま
No19	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕1月吉日	(40) けいせい後城砦 きさとのましろじょう 後城砦
No20	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕1月吉日	(41) けいせい筑紫■(■は王の下に金偏に夫) きさくすてはなけいせいどうじょうし (42) 夜花傾城道成寺 よはなけいせいどうじょう
No21	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕9月吉日	(43) 敵討浦朝霧 かたきうちうらあさぎり (44) 北条時頼記 けいじょうし
No22	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕8月吉日	(45) けいせい大江山 けいせいおおえやま (46) 菊新形繻番地 きくしんがたぬばんぢ (47) 鬼一法眼三略巻 おにほうがんさんりやくのまき
No23	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保13年(1842)〕3月吉日	(48) 傾城染分鏡 けいせいそめわけたづな
No24	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕1月吉日	(49) 花雪歌清水 はなふきうたのみきみず
No25	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕3月吉日	(50) 伽羅尼代萩 かろにしろはぎ (51) 姫山姥 ひめやまば
No26	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保2年()〕9月吉日	(52) 忠孝二街 ちゅうかうにがい
No27	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕11月吉日	(53) 菅原伝授手習鑑 すがはらでんじゆしなみ (54) 御恵月景清 おんめぐみづきのかげきよ
No28	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕5月吉日	(55) 木下藤兵衛合戦 このしたかふじへいあへせん (56) 織合襦袢錦 おひめがせうばんにしき
No29	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕5月吉日	(57) 敵討天下茶屋敷 かたきうちてんかちやうしき (58) 無宿団七時雨傘 むしゆくだんしちふりかさ
No30	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕9月吉日	(59) 有職鎌倉山 ゆうしよくかまくらやま (60) 刘隆泰門筑紫■(■は車偏に榮) りゅうりやうたいもんきさく (61) 義臣伝説切講釈 ぎしんでんせきけいこう

No31	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕3月吉日	(62) 御難光代狀 みよりあきつゝ
					(63) 嬬山姥 うすやまばな
No32	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕8月吉日	(64) 姉妹達大儀 あねいももたてのおおきど
No33	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕9月吉日	(65) 八陣守護城 はちじんしゅごじょう
					(66) 韓和聞書帖 かんわもんしよ
					(67) 五大刀恋藏 ごだいとうれんざう
No34	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保14年(1843)〕3月吉日	(68) 敵討賊流嶋 たかきりてんしゅうじま
					(69) 釜淵双奴巳 かまがふらふたつじもえ
No35	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕盆がはり	(70) 契情品評林 けいじやうひんぴやうりん
					(71) 織合団七端 おりあひだんしちじま
No36	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕9月吉日	(72) 伊達姿妓熊都緒 いたでさげくまづね
					(73) 嬬山姥五百機錦 うすやまばないつもはたにしき
No37	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕1月吉日	(74) けいせい 齊佳節 なづかのせつせき
					(75) 辰景色合肩 たけがけいろあかかた
No38	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕3月吉日	(76) 仮名手本忠臣蔵 かみなてほんしゅしんざう
					(77) 魁源平鯨鰐 きげんぺいけいづつじ
No39	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕1月吉日	(78) けいせい 石川染 いしかわぞめ
					(79) 国性爺合戦 こくしやうがっせん
No40	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕盆がはり	(80) 祇園祭礼信仰記 ぎやうさいれいしんぎ
					(81) 花相換蝶々紋目 はなあひかへてつてのいけがめ
No41	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化元年(1844)〕3月吉日	(82) 百原伝授子音鑑 ももはらでんしゅしおんかん
					(83) 信田森弥生葛葉 しんたのぶやういづすのは
No42	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保4年(1833)〕1月吉日	(84) 姫親双葉絵草紙 ひめぎみふたばえくさじ
No43	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保4年(1833)〕3月吉日	(85) 有職鎌倉山 ありしやくらゐりやま
					(86) 信州川中嶋合戦 しんしゅうかわなかのしるし
					(87) 東就恋深川 とうしゅれんふかがわ
No44	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保4年(1833)〕9月吉日	(88) 鳴廻月弓張 なるまわつきゆみはり
No45	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕9月吉日	(89) 嫁入信田楼 よめいりしんたろう
					(90) 源平布引瀧 げんぺいふりよのたき
					(91) 恋湊博多蔵 こいのみなとひろかのひとふし
No46	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕1月吉日	(92) けいせい 玉手瀧 たまてたき
					(93) 松朝霞粉色 まつあさかすみいろのいろどり
No47	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕9月吉日	(94) 嫁入信田楼 よめいりしんたろう
					(95) 源平布引瀧 げんぺいふりよのたき
					(96) 恋湊博多蔵 こいのみなとひろかのひとふし
No48	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕3月吉日	(97) 一谷嫩軍記 いちのやのにほよむぐんき
					(98) 小野道風青柳碯 おののちのぶふうあやなぎすずり
					(99) 重井節 かさねふしづつ
					(100) 福在原系図 ふくはらげんず
No49	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化2年(1845)〕8月吉日	(101) けいせい 卯船鰐 うしふねのうしづつじ
No50	大阪	中の芝居	役割番付	弘化2年(1845)1月吉日	(102) 鳴有東土産 なるありとうちぞうし
					(103) けいせい 英草紙 えいそうじ
No51	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕5月吉日	(104) 敵討崇徳寺馬場 たかきりてんしゅうじうばば
					(105) 競伊勢物語 けいせしやうものがたり
					(106) 関取千両帳 せきとりせんりやうのぼろ
No52	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕11月吉日	(107) 姉妹達大儀 あねいももたてのおおきど
					(108) 義経腰越状 よしつねこしやうしやう
					(109) 延紙の書置 のべがみかき置き

141 専修大学図書館所蔵 『上方芝居番付』… (五)

No53	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保5年(1834)〕10月吉日	(110) 勇成雄将門 (111) 重井簡 (112) 傾城反魂香
No54	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕7月吉日	(113) 天満宮葉鍾御供 (114) 国性爺合戦 (115) 堀江焼
No55	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕7月吉日	(116) 内百番富士太鼓 (117) かさねが潮恋備 (118) 世話料理八百屋献立 (119) 壇浦犯軍記 (120) 彰猿七兵
No56	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕3月吉日	(121) 仮名手本忠臣蔵
No57	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕5月吉日	(122) 敵討宗龍寺馬場 (123) 競伊勢物語 (124) 関取千両幟
No58	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕3月吉日	(125) 堀江出来也歌 (126) 八陣守護城
No59	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕3月吉日	(127) 仮名手本忠臣蔵 (128) 旅路乃花望
No60	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕1月吉日	(129) 花雪歌清水 (130) 一谷嫩軍記 (131) 助六由縁江戸桜 (132) 熊坂物見松
No61	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕1月吉日	(132) けい・せい 浜真砂 (133) 熱ちよとど五変化
No62	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化3年(1846)〕9月吉日	(134) 秋葉権現廻船帖 (135) 恋女房染分手綱 (136) 鐘鳴今朝囃 (137) 浮名の春雨
No63	大阪	中の芝居	役割番付	弘化4年(1847)7月吉日	(138) 絵本殿下茶屋衆 (139) 辰羽一重新雛形
No64	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕9月吉日	(140) 契情離源氏 (141) 重井簡 (142) 鬼一法眼三略巻 (143) 男作五雁金
No65	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕1月吉日	(144) 花魁蒼八総 (145) 由良漢軒長者
No66	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕1月吉日	(146) けい・せい 魂馬始 (147) 神靈矢口渡
No67	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保6年(1835)〕10月吉日	(148) 太平記忠臣講釈
No68	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保6年(1835)〕5月吉日	(149) 花魁詠吉野 (150) 源九郎狐御利生 (151) 三枚絵馬彩色
No69	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保6年(1835)〕4月吉日	(152) 契情箱伝授 (153) 伊勢吉頭恋縁鈿
No70	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕9月吉日	(154) 契情離源氏 (155) 重井簡 (156) 鬼一法眼三略巻 (157) 男作五雁金

No71	大阪	中の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕3月吉日	(158)太功出世染 (159)奥州安達原 (160)桂川連理榊
No72	大阪	角の芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕9月吉日	(161)けいせい花大樹 (162)三十三間堂棟由來
No73	大阪	中の芝居	役割番付	弘化4年(1847)7月吉日	(163)絵本殿下茶屋衆 (164)京羽二重新雛形
No74	大阪	竹田芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕11月吉日	(165)近江源氏先陣館 (166)義臣伝説切語釈 (167)及紋郭細絵
No75	大阪	〔角の芝居〕	役割番付	〔弘化4年(1847)3月吉日〕	(168)綜合太刃記 (169)関取二代鑑 (170)色話販
No76	大阪	若太夫芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕3月吉日	(171)菅原伝授手習鑑 (172)傾城反魂香 (173)壇浦弔軍記 (174)師影猿人真似
No77	大阪	若宮芝居	役割番付	〔弘化4年(1847)〕8月吉日	(175)濃紅藥小會色紙 (176)大塔宮 鏡 (177)国流嫩笈摺 (178)藍袴襖金五紋
No78	京都	四条北側芝居	役割番付	嘉永元年(1848)11月吉日	(179)壽式三 (180)菅原伝授手習鑑 (181)基太平記白石斬 (182)大都會見取會我
No79	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕9月吉日	(183)彦山権現普助観 (184)菅原伝授手習鑑 (185)双蝶々曲輪日記
No80	大阪	中の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕1月吉日	(186)けいせい曾我鎌倉■(■は金偏に集)
No81	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕1月吉日	(187)けいせい忍術池 (188)楠普助 (189)春興恵方曙
No82	大阪	中の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕3月吉日	(190)いづは仮名四十七訓
No83	大阪	若太夫芝居	役割番付	嘉永元年(1848)5月吉日	(191)ひらかな盛衰記 (192)彦山権現普助観 (193)生享朝顔話
No84	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕3月吉日	(194)敵討藏流嶋 (195)染惣孫妹背門松
No85	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕5月吉日	(196)伊賀越桑掛合羽 (197)須磨都源平脚端 (198)極彩色娘罵 (199)壱山姥
No86	大阪	中の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕8月吉日	(200)花節大敷簀 (201)東都座伊達雛形
No87	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕8月吉日	(202)三国大市川封恋 (203)基太平記白石斬
No88	大阪	中の芝居	役割番付	〔嘉永元年(1848)〕9月吉日	(204)長柄長者黄島増 (205)御所被褥川夜討 (206)恋飛脚大和往來



143 専修大学図書館所蔵 『上方芝居番付』… (五)

No89	大阪	中の芝居	役割番付	嘉永2年(1849)1月吉日	(207)けいせい <small>いしかけぞめ</small> 石川巖
No90	大阪	角の芝居	役割番付	嘉永2年(1849)1月吉日	(208)花雪歌清水 <small>はなゆがうたのきみず</small> (209)けいせい青陽■(■は集偏に鳥) <small>はるのひかり</small> (210)尾上岩藤後日話 <small>おのうえいふさのあとのわなし</small>
No91	大阪	中の芝居	役割番付	嘉永2年(1849)3月吉日	(211)四天王伽藍鑑 <small>してんのうがらんかみ</small> (212)桜舞台近江八景 <small>さくらぶたいおうみはっけい</small>
No92	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕4月吉日	(213)仮名手本忠臣蔵 <small>かみなてほんちゆうじんざう</small> (214)歳景清八嶋日記 <small>としづめきよやしまにっき</small> (215)容保出入湊 <small>ようほうでいりいりみなと</small>
No93	大阪	竹田芝居	役割番付	嘉永2年(1849)4月吉日	(216)合詞四十七文字 <small>あいておれしじゅうななじ</small> (217)色紙販 <small>いろしのかみうり</small>
No94	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕5月吉日	(218)基太平記白石断 <small>きたいへいきしはくなし</small> (219)平井權人吉原通 <small>ひらいごんべいしよんあゆみ</small> (220)契情青陽■(■は集偏に鳥) <small>けいけいはるのひかり</small> (221)言時花娘排鹿 <small>ときのはなむすめひかのこ</small> (222)小野道風青柳硯 <small>おののちやうふうあおやなぎすずり</small> (223)御所桜堀川夜村 <small>しよぐくはかりかわようち</small> (224)関取千両藏 <small>せきとりせんりやうのぼり</small>
No95	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕7月吉日	(225)ひらかな盛衰記 <small>ひらかなせいざい</small> (226)夏祭浪花鑑 <small>なつまつりなはながみ</small> (227)和田谷戦女舞鶴 <small>わだのべんせんむすめまいたる</small> (228)星猿権玉踊 <small>しきやうのえんたまはたまづめ</small>
No96	大阪	竹田芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕8月吉日	(229)源平布引籠 <small>げんへいぬひのぼり</small> (230)箱根雲映壁仇討 <small>はこねうみけのあかぢう</small> (231)信州於六桶 <small>しんしやうおみづく</small>
No97	大阪	中の芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕8月吉日	(232)薩伊勢物語 <small>さつあいのものがたり</small> (233)権歌木津川八景 <small>きんかのかきづがははっけい</small>
No98	大阪	角の芝居	役割番付	〔嘉永2年(1849)〕9月吉日	(234)越前三国夫婦塚 <small>えちぜんみくにめうづか</small> (235)梶原平三紅梅豹 <small>かじはらへいざうべう</small> (236)世話料理八百屋献立 <small>せわのりやひやうやく</small> (237)須磨都源平團圓 <small>すまのふゆへんづつし</small>
No99	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保9年(1838)〕1月吉日	(238)仮名手本忠臣蔵 <small>かみなてほんちゆうじんざう</small> (239)岡計略花芳野山 <small>おかけいりやくのはなよしやま</small>
No100	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保9年(1838)〕8月吉日	(240)室町容笠播磨廻 <small>むろまちのうしきひらめり</small> (241)紅筆恋取組 <small>べにふでこいぐみ</small> (242)一谷嫩軍記 <small>いちやのたけなぐんき</small>
No101	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保9年(1838)〕9月吉日	(243)契情品評林 <small>けいけいしんさだめ</small> (244)嵐馬道満大内鑑 <small>あらしうまみちのうちのかみ</small>
No102	大阪	〔角の芝居〕	役割番付	〔文政9年(1826)9月吉日〕	(245)伊賀越道中双六 <small>いげえちみちのうしほ</small>
No103	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保10年(1839)〕3月吉日	(246)妹背山婦女庭訓 <small>いもせやまおんなていしん</small> (247)撰州合邦辻 <small>せんしゆがはつじ</small> (248)福在原系図 <small>さいしやうのわがしづ</small> (249)小栗判官車街道 <small>おぐりはんくわんくるまみち</small>
No104	大阪	中の芝居	役割番付	〔天保10年(1839)〕1月吉日	(250)ももちどり鳴門白浪 <small>なるめりしるなみ</small> (251)契情實指南所 <small>けいけいじしんなんしよ</small>
No105	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保10年(1839)〕1月吉日	(252)けいせい浜真砂 <small>はままきさ</small> (253)先代萩若栄 <small>ちよのりはかき若のわかばえ</small>
No106	大阪	角の芝居	役割番付	〔天保10年(1839)〕8月吉日	(254)嶋原炭七種蔵録 <small>しまはらせむななしちり</small> (255)梶原平三紅梅豹 <small>かじはらへいざうべう</small>